

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成24年度

在学生・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 **抜粋**]

金沢工業高等専門学校

平成24年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは、学生の真摯な回答が得られるにつれ、本校FD活動の道具の1つとしてその重要性を増している。同時に、アンケート活動に関して対応する学校側の責任が増してきていることを深く認識している。当該施策については、平成24年11月に実施された学位授与機構による認証評価においても高く評価され、その意義を再認識することとなった。評価のみ求めて改善は後回しと言うやり方は、この種の活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し、必要な具体的施策を提言することとなろう。

本年度のアンケート結果には、企業並びに卒業生からのご意見は含まれない。このことは、急速に変化するグローバル化社会に対応し、地域密着型の高専として方向を打ち出している本校の今後の課題となろう。

高専は、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみの場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。いずれかの要素に偏重することは、学生教育上問題を発生させることになる。私学が公立学校と異なる点は、この学校が或る「理念」の下に存在し、それを追及する人間の組織として存在し、それを求める学生が集まっていると考えることができることである。前年同様、今年も学生の本校に対する印象度が向上したことは嬉しいことである。学生募集は低迷しつつも向上しており、教職員は多忙感や業務集中を訴えながら頑張っている。限りある資源を大切にして改善を進める必要がある。アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って評価されるべきであり、各種の提言は明日への改善策として活用されなければならない。

本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。この結果を今後の学校改革に活用して行きたい。結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイントに感謝申し上げます。

平成25年7月

金沢工業高等専門学校

校長 山田 弘文

全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で10回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。	
総回答数	567サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・有効回答数 1年生:130サンプル、2年生:128サンプル、3年生:93サンプル、4年生:76サンプル、5年生:85サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成25年2月15日)
	卒業生	・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
	教職員	・有効回答数 55サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成25年2月15日、回収:平成25年2月23日)
	企業担当者	・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> 学科構成が平成21年度の1年生から「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。

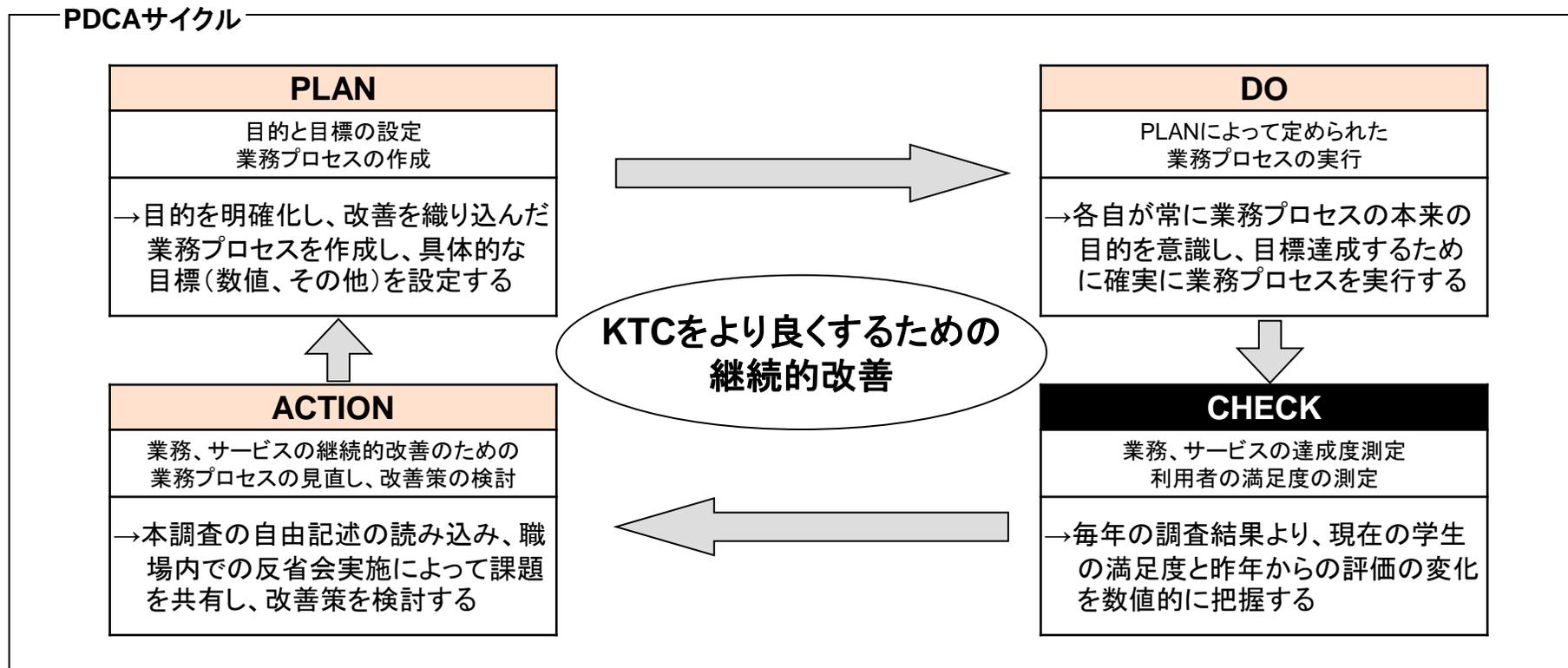
■回答者数に関して

学年	平成24年度 回答者 (今回分)	平成23年度 回答者	平成22年度 回答者	平成21年度 回答者	平成20年度 回答者	平成19年度 回答者	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	130人	134人	115人	81人	110人	92人	121人	122人	135人	140人
2年	128人	113人	79人	104人	105人	108人	117人	130人	135人	127人
3年	93人	63人	80人	92人	95人	88人	113人	113人	98人	113人
4年	76人	91人	102人	103人	103人	114人	121人	113人	109人	121人
5年	85人	98人	99人	96人	111人	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	66人
教職員	55人	55人	62人	53人	59人	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	65人
合計	567人	698人	537人	529人	696人	578人	627人	627人	649人	811人

PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。



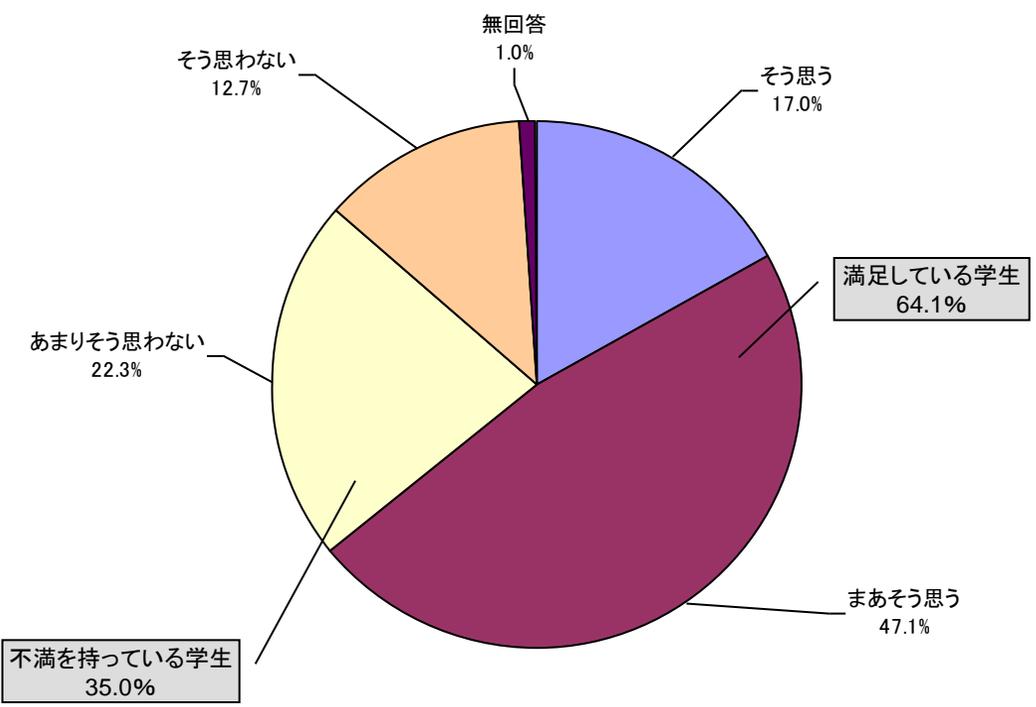
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

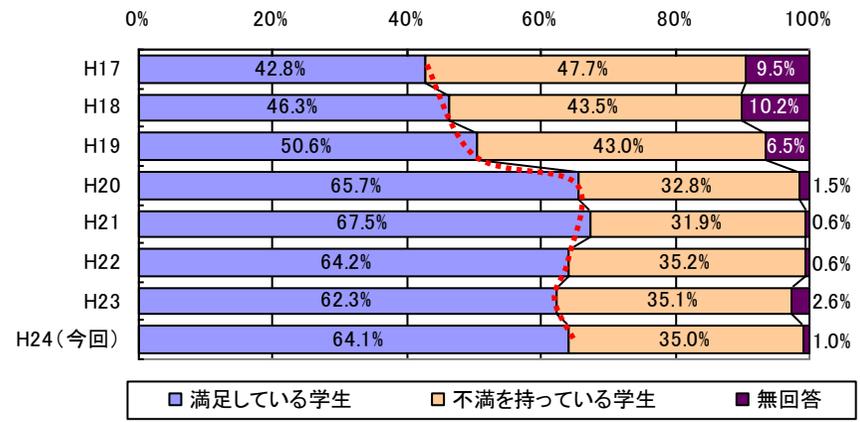
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」に関しては、17.0%が「そう思う」、47.1%が「まあそう思う」であり、合計すると64.1%が満足と答えており、不満を持っている学生は35.0%となっていた。
- 年度別に比較すると、「満足している学生」の割合はH23より1.8ポイント増加していた。H23はH22より減少していたが、今回は増加に転じており、H22(64.2%)とほぼ同じレベルとなっていた。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



■金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



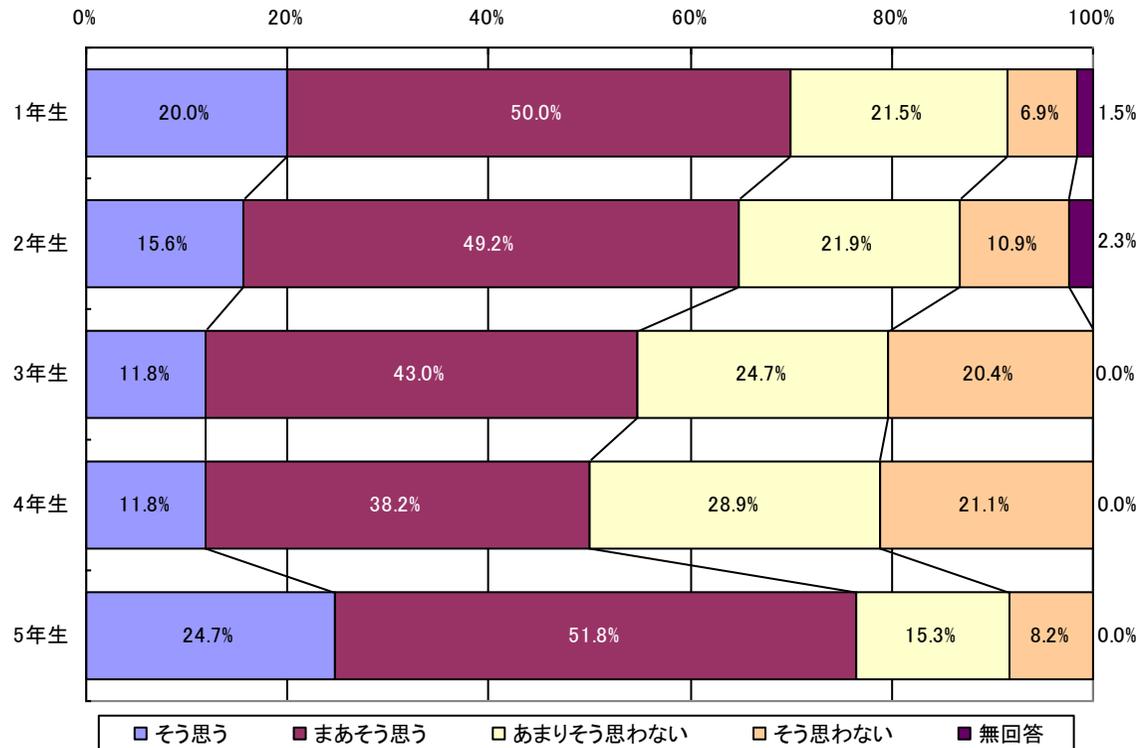
■金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

年度	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	<	47.7%
H18	46.3%	>	43.5%
H19	50.6%	>	43.0%
H20	65.7%	>	32.8%
H21	67.5%	>	31.9%
H22	64.2%	>	35.2%
H23	62.3%	>	35.1%
H24(今回)	64.1%	>	35.0%

■総合的満足度の学年別比較

- 「高専の総合的満足度」を学年別に比較すると、「5年生」で「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も高く、76.5%が満足と答え、不満を持っている学生は23.5%にとどまっていた。
- 上記に次いで「1年生」で70.0%、「2年生」で64.8%が満足と答えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「4年生」であり、満足という回答は50.0%であった。次いで「3年生」が54.8%であり、「4年生」は半数が不満を感じているという結果であった。
- 学年との相関関係を見ると、「4年生」までは高学年ほど満足度が低下するという傾向が続き、「5年生」で一気に満足度が増すという傾向となっていた。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



■金沢高専の総合的満足度 学年別内訳

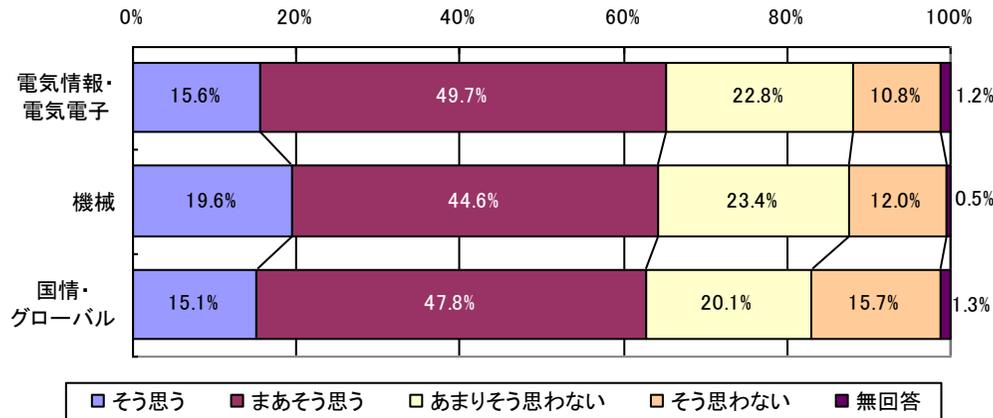
学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
1年生	70.0%	>	28.4%
2年生	64.8%	>	32.8%
3年生	54.8%	>	45.1%
4年生	50.0%	=	50.0%
5年生	76.5%	>	23.5%

4年生以外で「満足」の割合が「不満」を超えた

■総合的満足度の学科別比較

- 総合的満足度を学科別に比較したところ、学科間の差はそれほど大きくなかったが、「そう思う」と「まあそう思う」の合計では「電気情報・電気電子」が65.3%と最も高く、次いで「機械」(64.2%)、「国情・グローバル」(62.9%)と続いていた。ただし、「そう思う」だけを見ると「機械」が19.6%と最も多く、満足度の高さがうかがえた。
- H17からの経年変化を見ると、「電気情報・電気電子」と「国情・グローバル」では満足という回答が前回は上回っていた。そして、「機械」だけは前回は下回っていた。「機械」は他の学科と比べると変化が小さく、H20以降は安定していたが、今回はH23を7.2ポイント下回る結果となっていた。

■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)

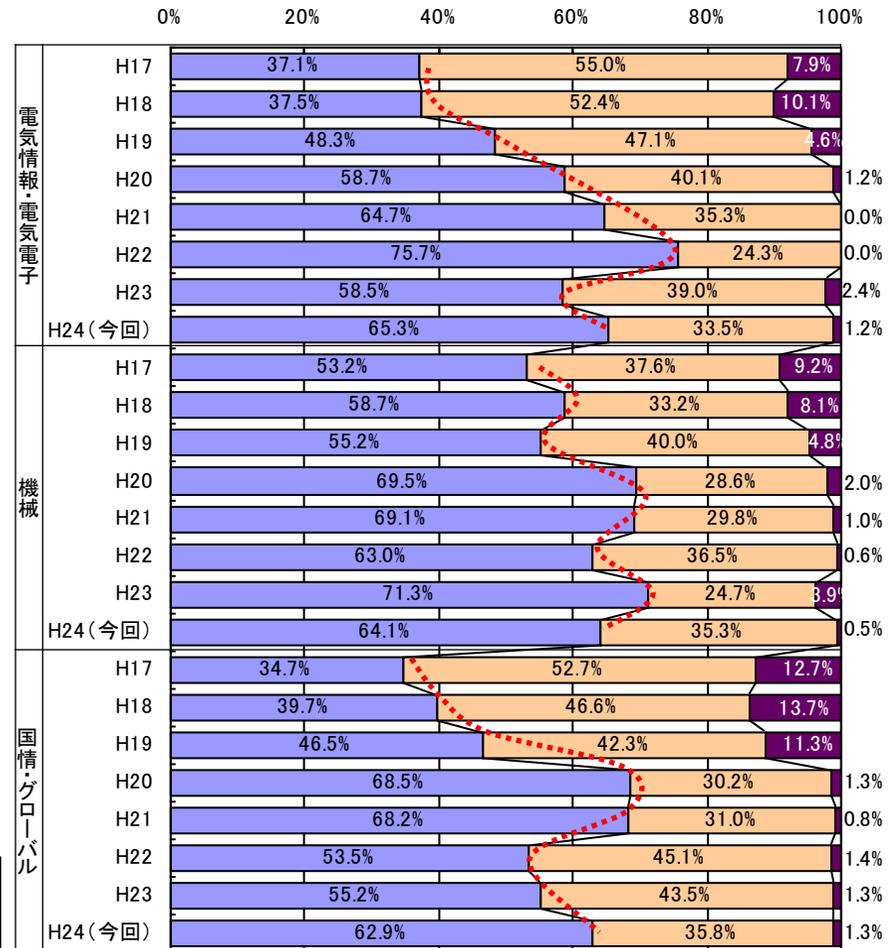


■金沢高専の総合的満足度 学科別内訳

学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
電気情報・電気電子	65.3%	>	33.6%
機械	64.2%	>	35.4%
国情・グローバル	62.9%	>	35.8%

■ 満足している学生
■ 不満を持っている学生
■ 無回答

■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

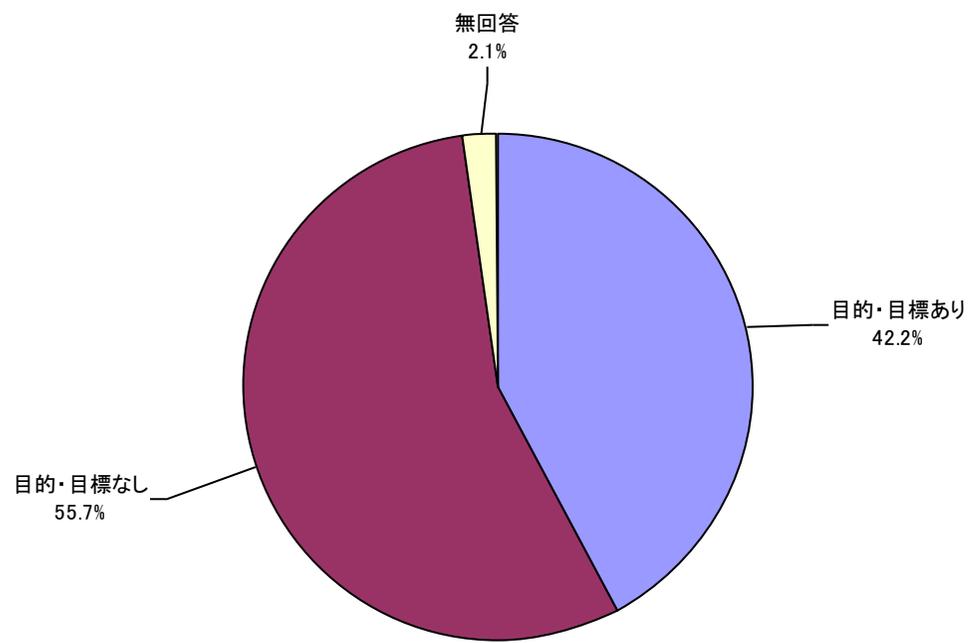


目的・目標に関する意識に関して

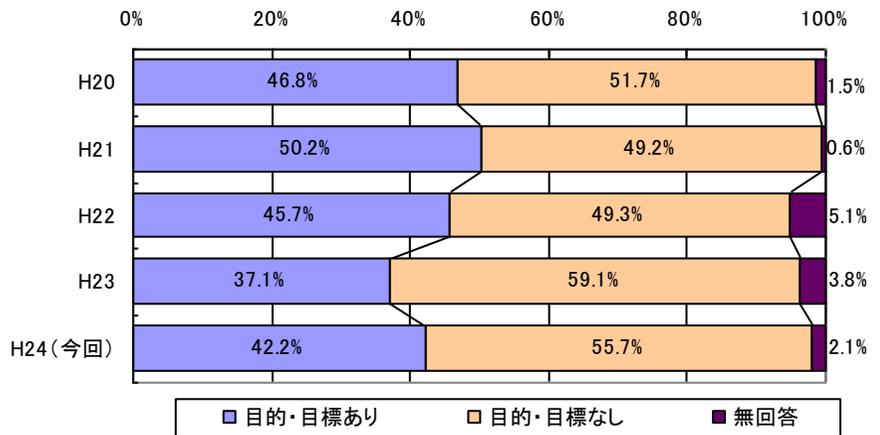
■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「目的・目標あり」という回答が42.2%、「目的・目標なし」が55.7%であった。
- H20からの年度別の変化を見ると、H20からH22までは5割前後の学生が「目的・目標あり」と答えていたが、H23には37.1%と低下し、今回は42.2%になっていたが、以前と比べると「目的・目標」を持っているという学生は少なく、半数以上は「目的・目標」をもたないまま学生生活を送っていることが分かった。

■在学中の「目的・目標」の意識



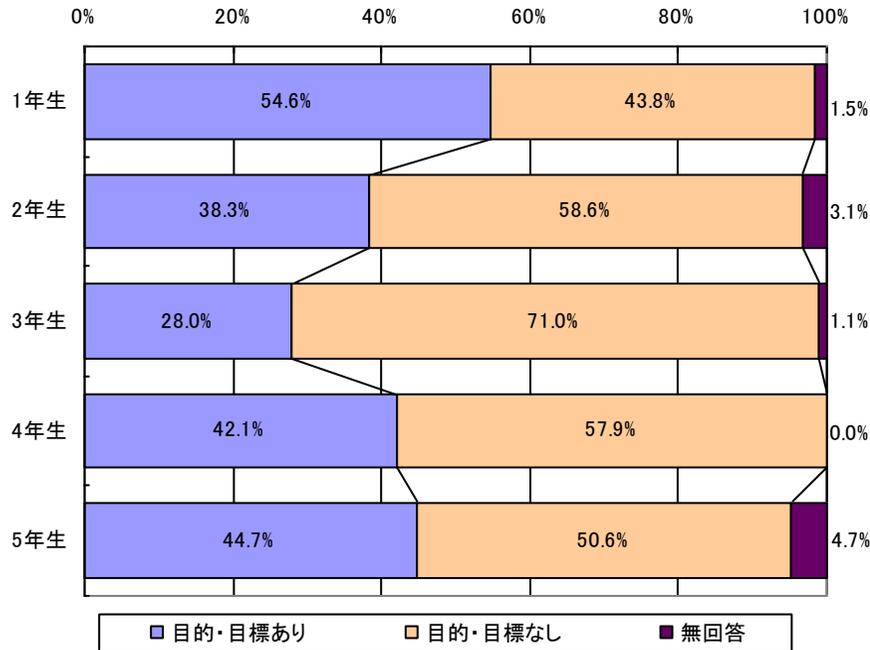
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



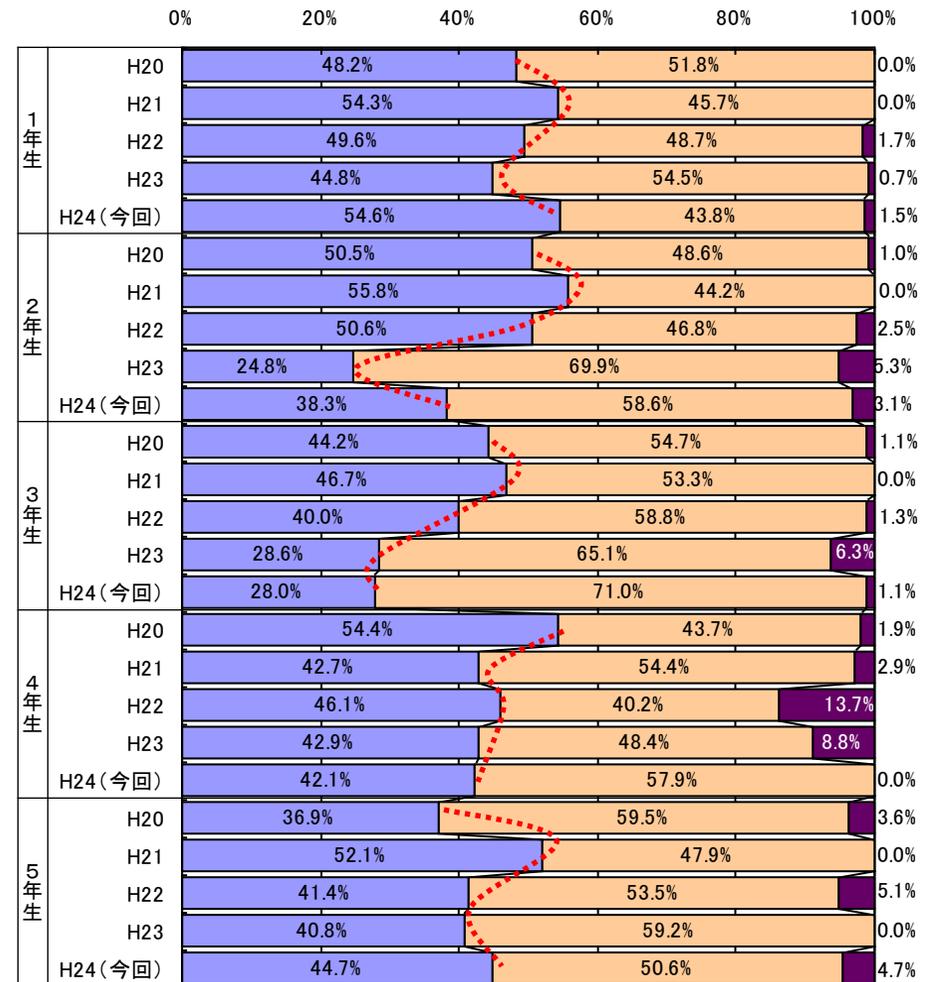
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標」の有無を学年別に比較すると、「目的・目標あり」は「1年生」が54.6%で最も多く、次いで「5年生」(44.7%)、「4年生」(42.1%)、「2年生」(38.3%)と続いており、「3年生」が28.0%と最も低く、「目的・目標なし」は71.0%となっていた。
- 学年別にH20からの経年変化を見ると、「1年生」「2年生」「5年生」は前回よりも「目的・目標あり」の割合が増加していた。特に「2年生」は前回が低かったため増加が大きく、「1年生」は今までで最も高くなっていた。そして、「3年生」「4年生」は前回とほぼ同じとなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



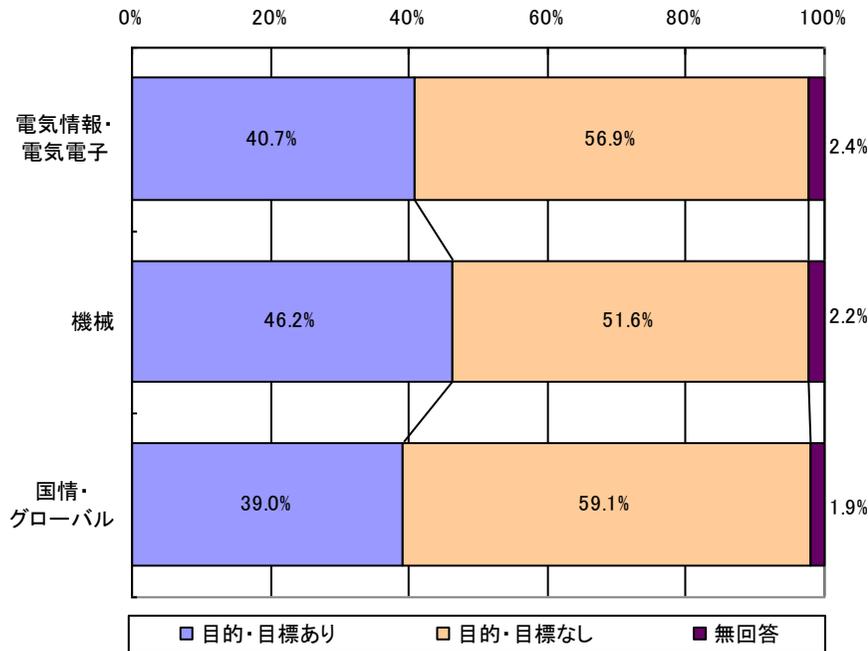
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



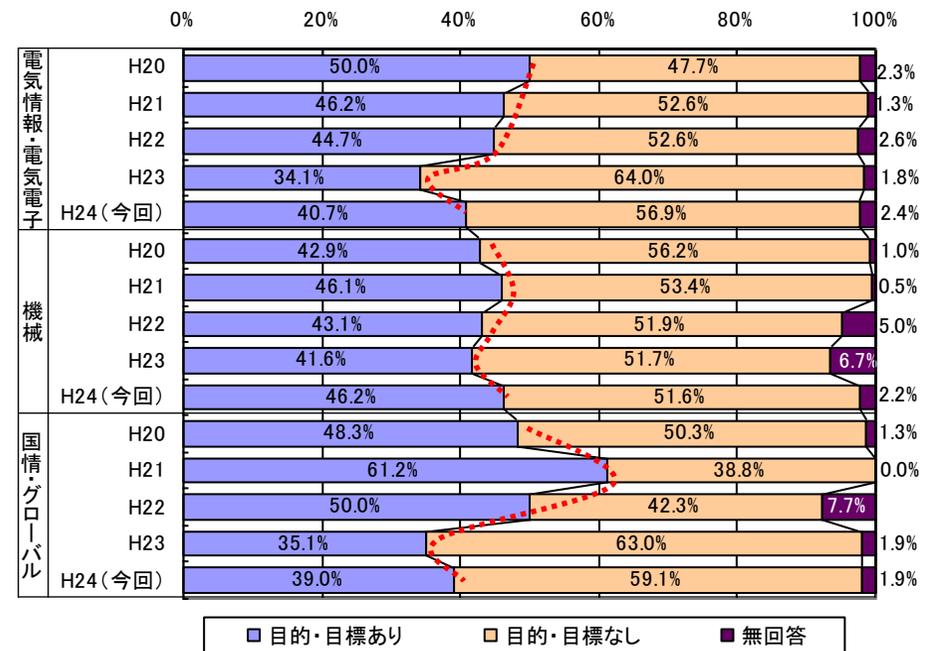
■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標」の有無を学科別に比較したところ、「目的・目標あり」は「機械」が46.2%で最も高く、「電気情報・電気電子」が40.7%、「国情・グローバル」が39.0%と続いていた。
- H20からの変化を見ると、3学科共に前回より「目的・目標あり」の割合が増加していた。いずれの学科も4～6ポイントほど前を上回っており、それほど大きな変化ではなかったが、「機械」はこれまでで最も高くなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

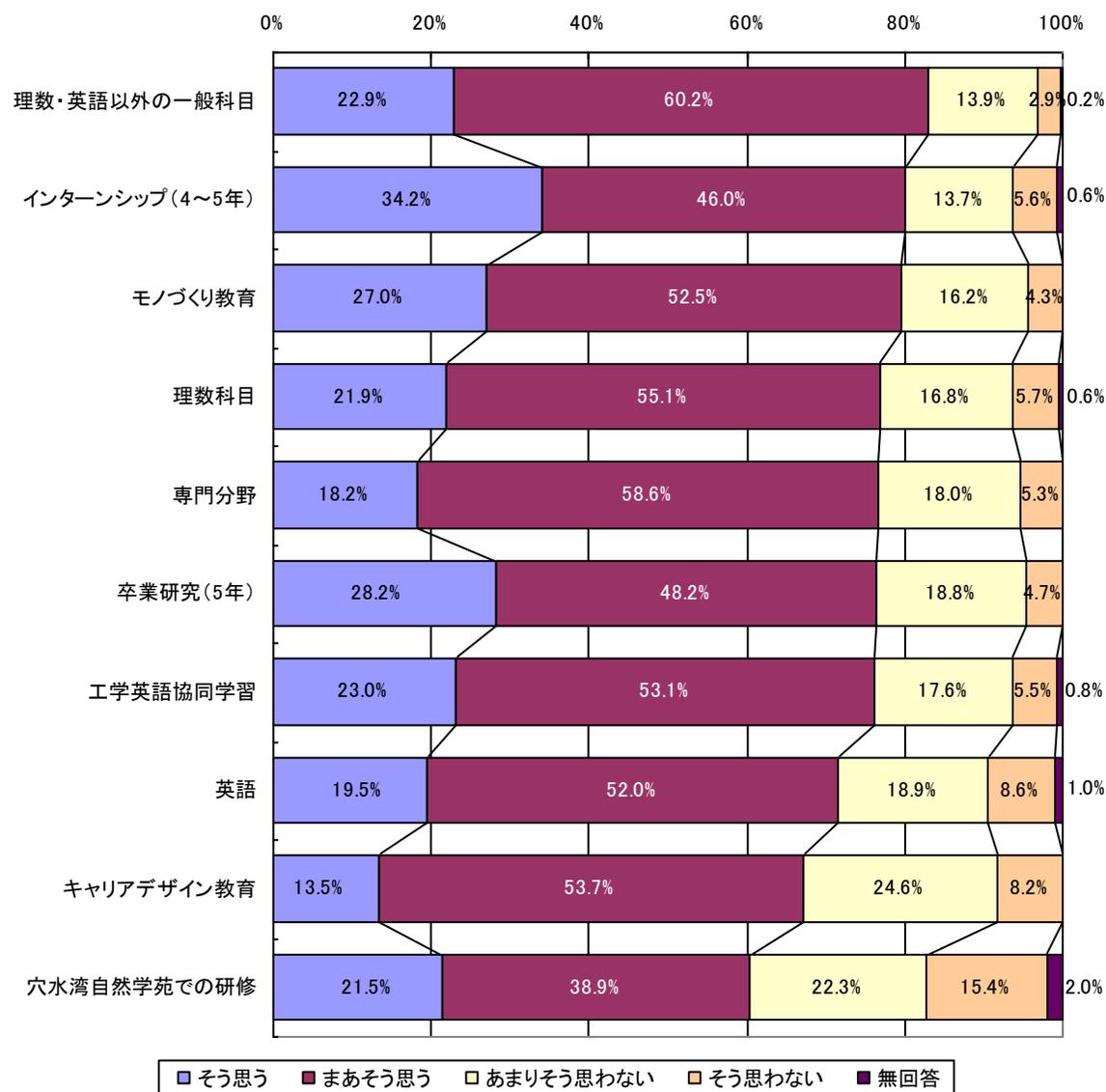


授業に関して

■授業に対する評価

- 授業の満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「理数・英語以外の一般科目」の満足度が83.1%と最も高かった。
- 「インターンシップ」が上記に次いで80.2%が満足と答えていたが、この科目は4年生、5年生のみの科目であり、「そう思う」だけを見ると34.2%と最も高く、学年は限られるが非常に満足度が高いことが分かる。
- 上記に次いで「モノづくり教育」では満足という回答が79.5%、「理数科目」が77.0%、「専門分野」が76.8%、「卒業研究」が76.4%と続いていた。「卒業研究」は5年生のみの科目であり、「そう思う」が28.2%と満足度の高さがうかがえた。
- 最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、37.7%が不満と答えており、次いで「キャリアデザイン教育」では32.8%が不満という答えであった。

■授業に対する満足度（在学生のみ）

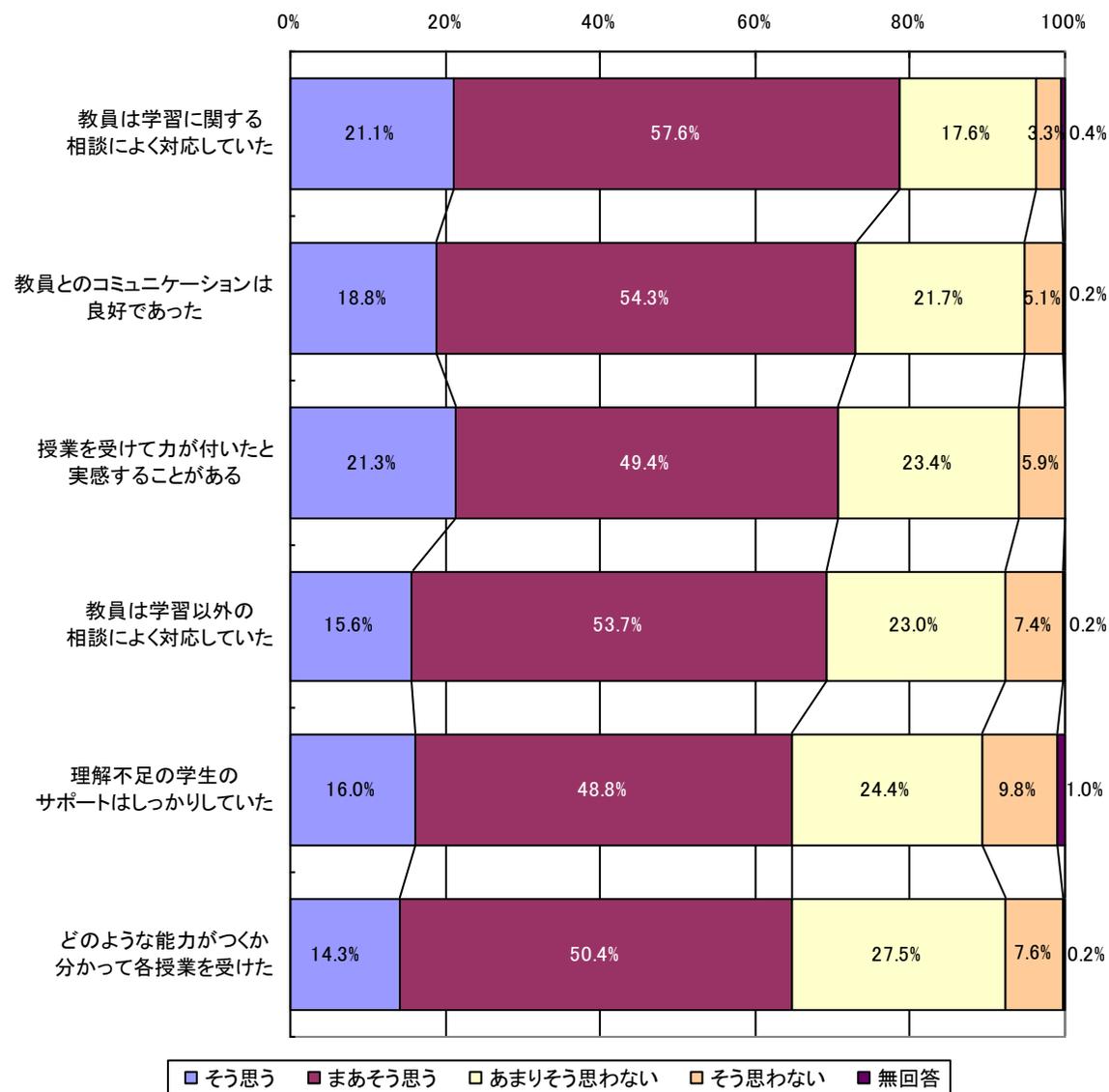


教員および学習支援に関して

■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「教員は学習に関する相談によく対応していた」で78.7%が満足しており、最も高かった。
- 上記に次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」(73.1%)、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」(70.7%)と続いており、以上の3つの項目では7割以上が満足という回答であった。
- 最も満足度が低かったのは「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」であり、満足という回答は64.7%であり、35.1%は不満という回答であった。
- 「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」の満足度もやや低く、34.2%は不満という回答であった。

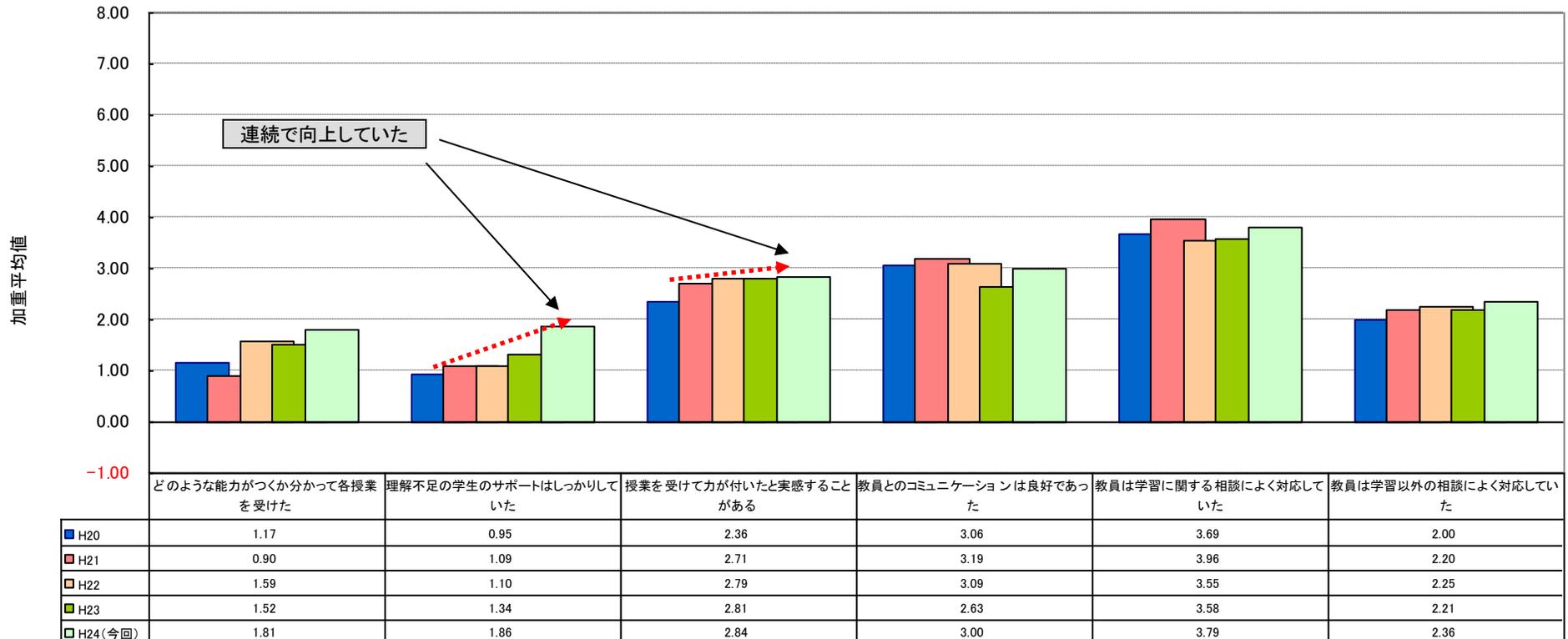
■教員および学習支援の満足度(在学生のみ)



■教員および学習支援の満足度の年度別比較

- 教員および学習支援の満足度の年度別比較を見ると、わずかな変化の項目もあるが全てが前回は上回っており、いくつかの項目は過去最高の評価となっていた。
- 「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」は前回より大きく上がっており、H20から継続的に評価が上がっていた。また、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」はH21からはほぼ横這いではあるが、上昇を続けてこれまでで最高となっていた。
- 「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」「教員は学習以外の相談によく対応していた」の2つはH22からH23にかけて評価が下がったものの、今回は上がりこれまでで最高となっていた。

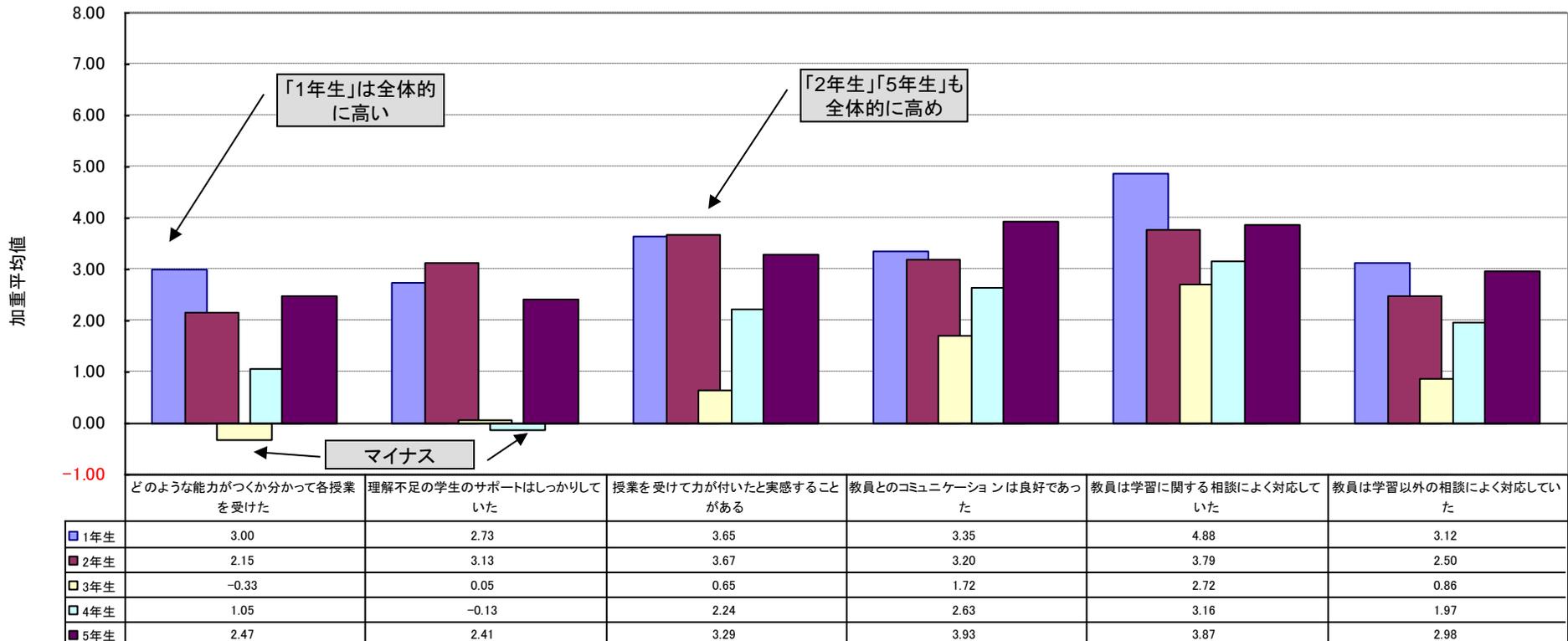
■教員および学習支援評価 年度別比較



■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 教員および学習支援の評価を学年別に比較したところ、「1年生」「2年生」「5年生」が全体的に高めであった。「1年生」は「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」「教員は学習に関する相談によく対応していた」の2点の高さが目立っており、「教員は学習以外の相談によく対応していた」も高かった。
- 「2年生」も全体的に高く、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「授業を受けて力が付いたと実感することがある」は最も高かった。そして、「5年生」は「教員とのコミュニケーションは良好であった」の高さが目立っていた。この「1年生」「2年生」「5年生」の3学年は目立って低いものがなかった。
- 「3年生」「4年生」は全体的に低めであったが、「3年生」では特に「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」はマイナスとなっており、他の項目もほとんど最低となっていた。「4年生」は「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」はマイナスとなっており、その他の項目も「3年生」に次ぐ低さとなっていた。

■教員および学習支援評価 学年別比較

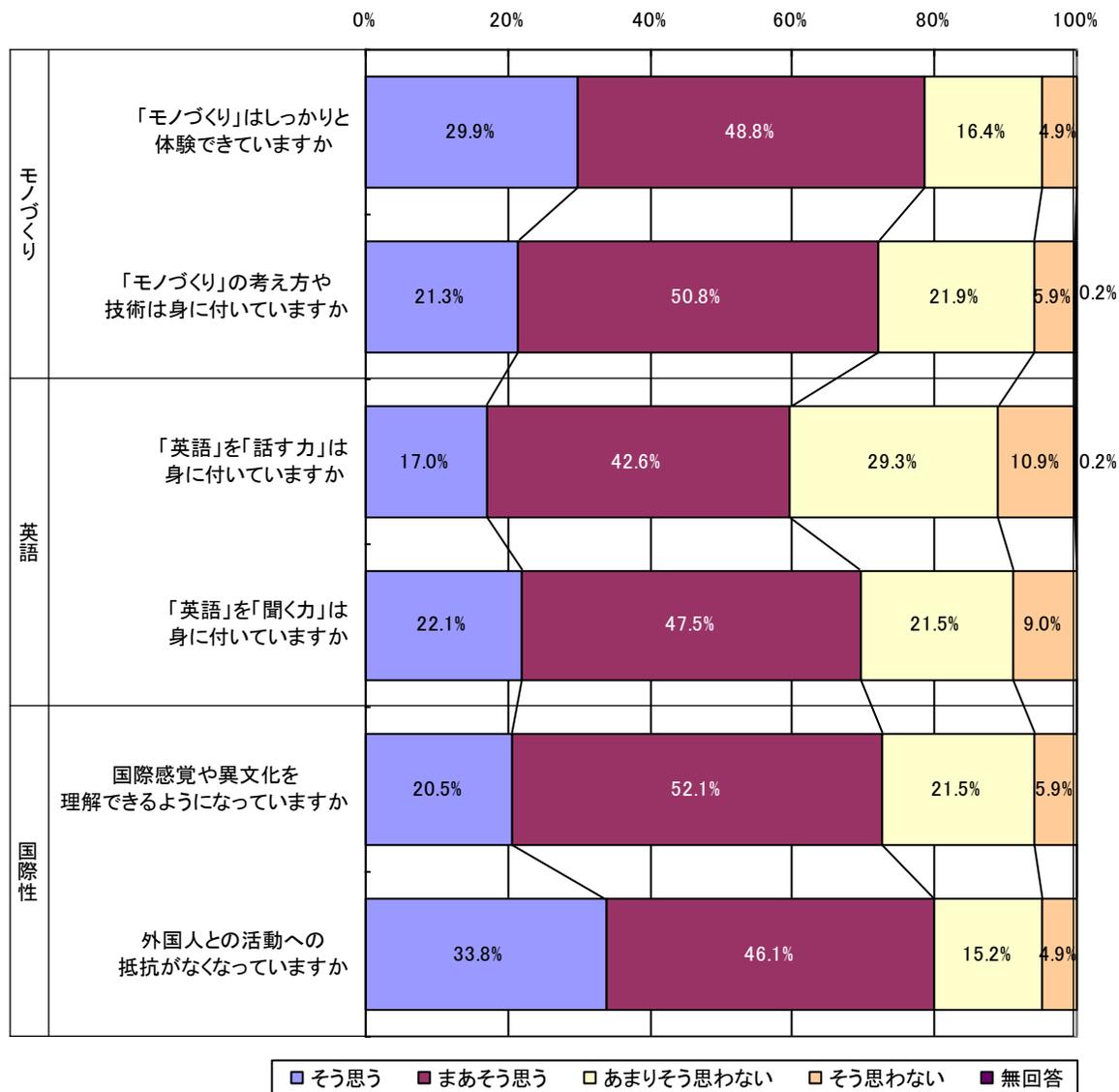


「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 授業の内容として「モノづくり」「英語」「国際性」を取り上げ、それらの評価を確認した。
- 「モノづくり」の「しっかりと体験できていますか」という問いに対しては、「そう思う」が29.9%、「まあそう思う」が48.8%で、合わせると78.7%が肯定的意見であった。同様に「考え方や技術は身に付いていますか」では72.1%が肯定的な意見であった。
- 「英語」の「話す力」に関しては59.6%が身につけていると答え、「聞く力」では69.6%であり、「話す力」に課題がありそうであった。
- 「国際性」の「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」に対しては72.6%が肯定的な意見であり、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」に対しても、79.9%が肯定的な意見で、外国人への抵抗は少なくなっていることが分かった。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



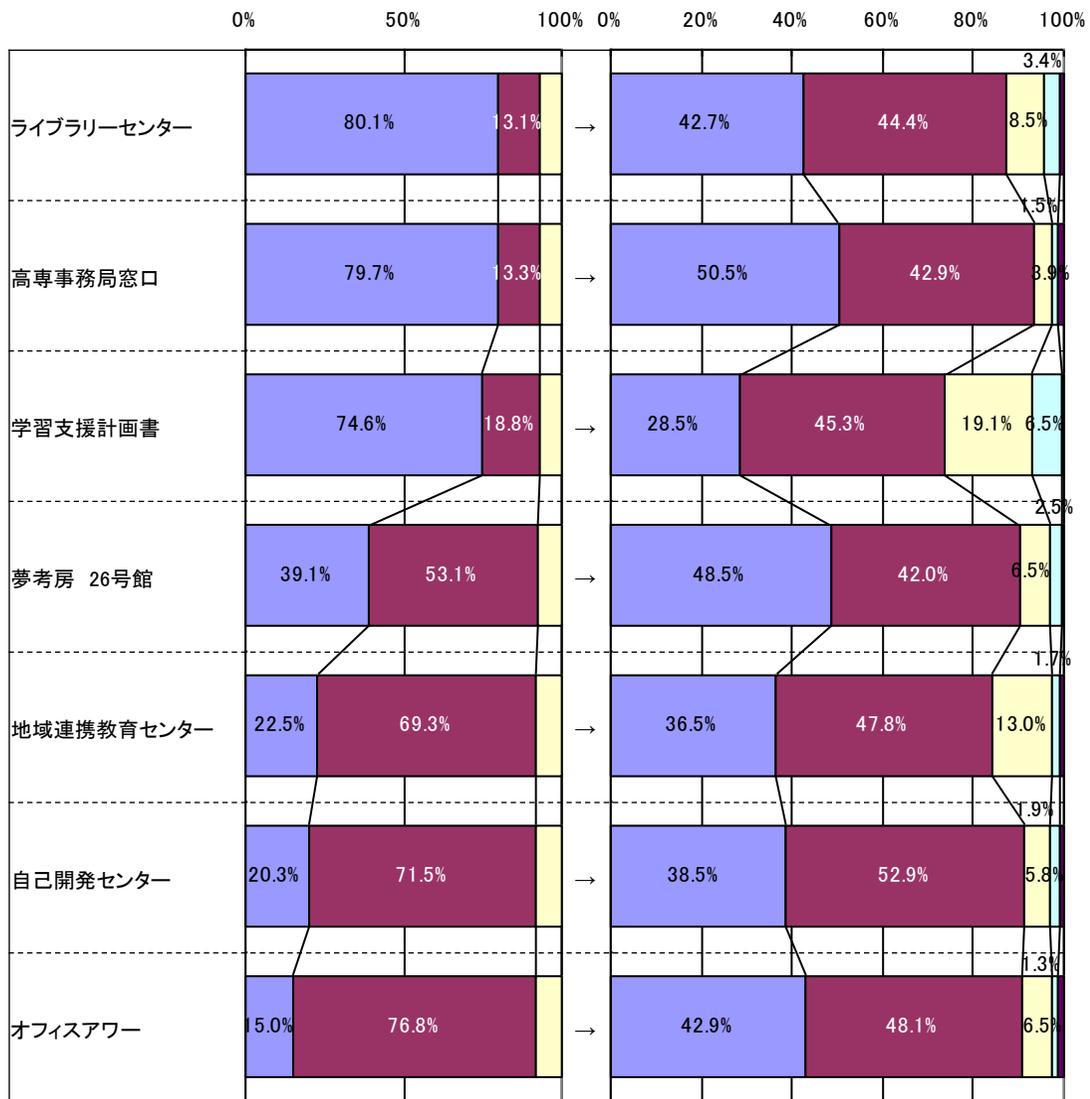
学生サポートに関して

■学生サポートの満足度

- 学生サポートに関しては、各サポートの利用の有無を聞き、利用経験者に満足度を聞いた。グラフは利用者の多いものから順に並べている。
- 利用の有無を見ると「ライブラリーセンター」の利用率が80.1%で最も高く、「高専事務局窓口」が79.7%とほぼ同じであった。そして、「学習支援計画書」が74.6%であり、ここまでの3項目の利用率が7割を超えていた。
- 利用率が最も少なかったのは「オフィスアワー」の15.0%で、「自己開発センター」が20.3%、「地域連携教育センター」が22.5%と続いていた。
- 満足度は全体的に高く、「役立つ」と「まあ役立つ」を合わせるとほとんどの項目で8割以上が満足と答えていた。
- 最も満足度が高かったのは「高専事務局窓口」であり、93.4%が満足と答えていた。次いで、「自己開発センター」が91.4%、「オフィスアワー」が91.0%「夢考房26号館」が90.5%と続いていた。
- 「オフィスアワー」「自己開発センター」は利用率が非常に低いにも関わらず、満足度は9割を超えており、機能としては問題はないが、利用促進が足りないものと思われた。
- 満足度が最も低かったのは「学習支援計画書」であり、「役立つ」が28.5%、「まあ役立つ」が45.3%であった。

■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からの結果)



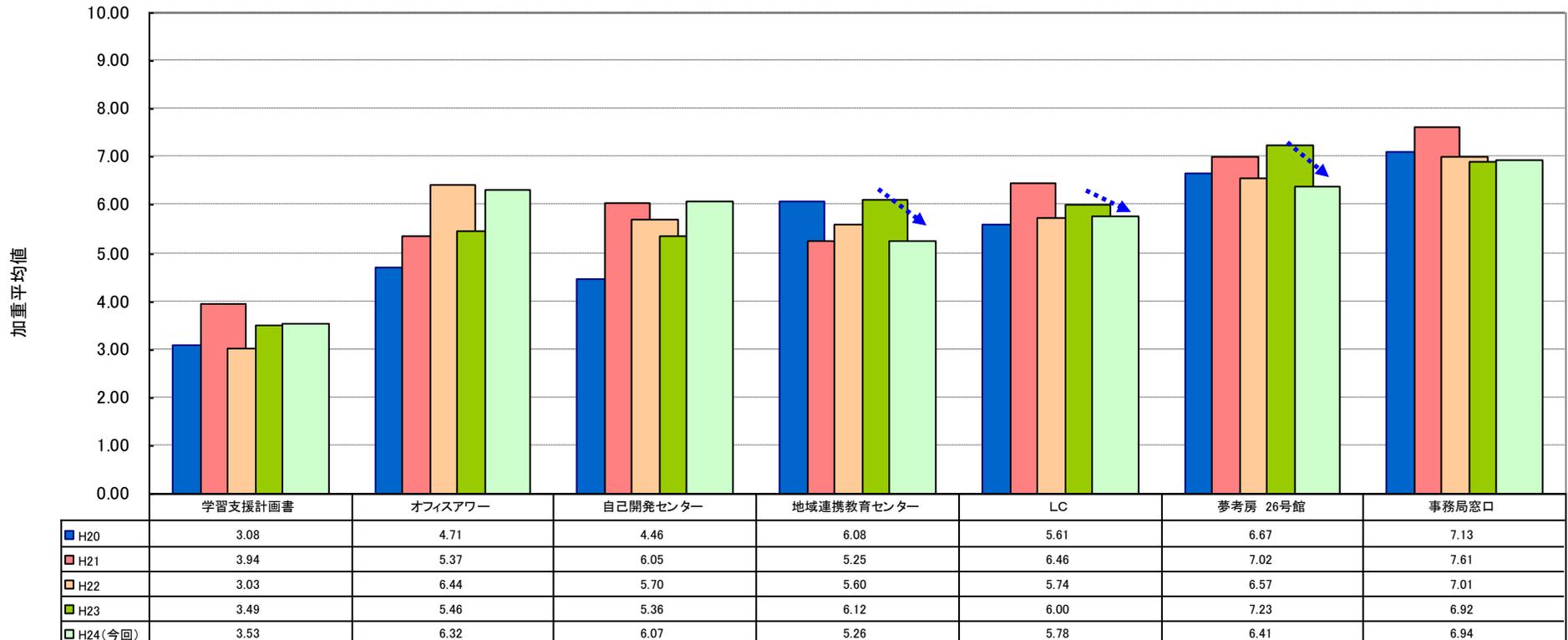
■あり ■なし □無回答

■役立つ ■まあ役立つ □あまり役立つ
□役立つ ■満足 ■無回答

■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

- 学生サポートの年度別比較は利用者の満足度のみを比較している。
- 全体の傾向を見ると「地域連携教育センター」「ライブラリーセンター」「夢考房26号館」の3つは、前回より満足度が低下していた。特に「地域連携教育センター」と「夢考房26号館」の満足度の低下は大きく、いずれもこれまでで最低のレベルとなっていた。
- 上記の3項目以外は前回より満足度が上がっていた。特に「オフィスアワー」と「自己開発センター」は大きく向上し、これまでで最高に近いレベルとなっていた。また、「学習支援計画書」と「事務局窓口」は前回とほぼ横並びとなっていた。

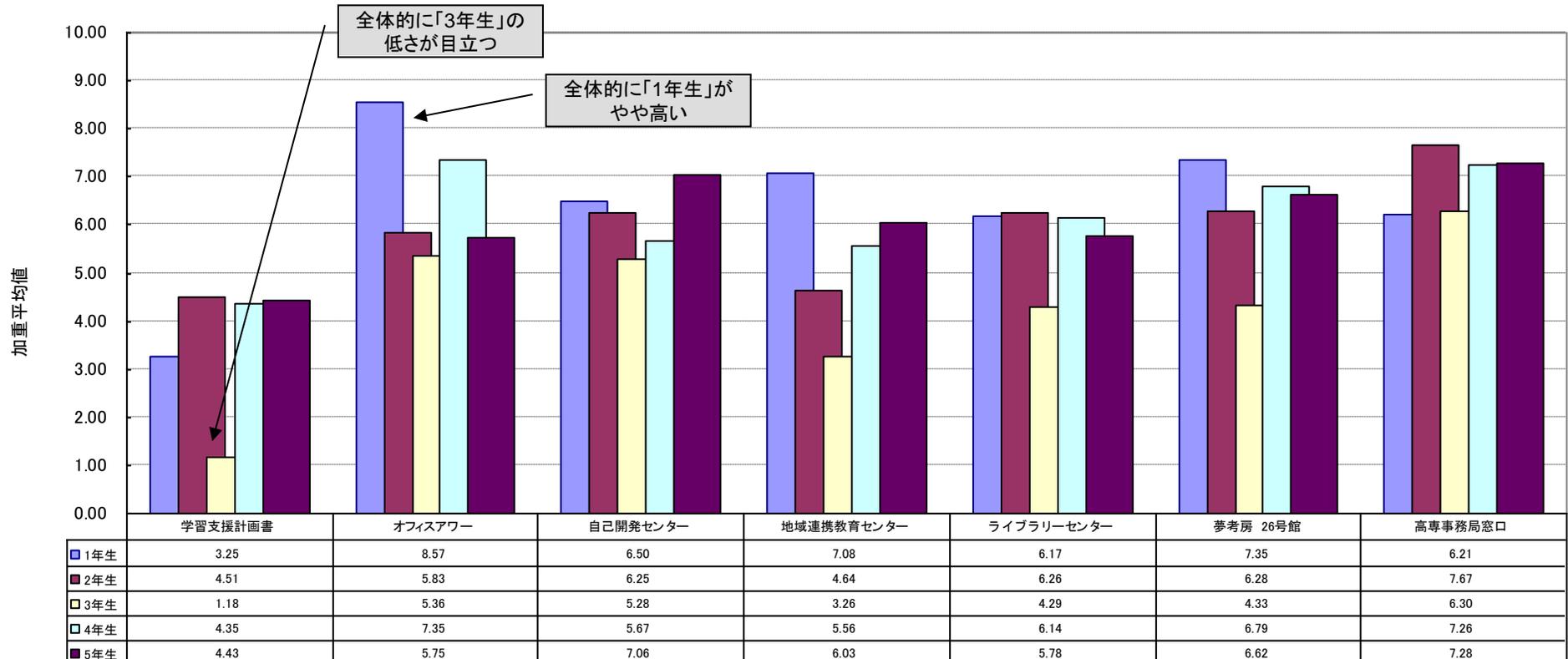
■ 学生サポート評価 年度別比較



■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

- 学生サポートの評価を学年別に比較したところ、「1年生」が全体的にやや高めであり、「3年生」が低めとなっていた。
- 「1年生」は「オフィスアワー」「地域連携教育センター」の評価の高さが目立っており、「夢考房26号館」も評価が高かった。
- 「3年生」はほとんどの項目で最も満足度が低く、特に「学習支援計画書」「地域連携教育センター」「ライブラリーセンター」「夢考房26号館」の低さが目立っていた。
- 上記以外の学年では、「2年生」の「学習支援計画書」「ライブラリーセンター」「高専事務局窓口」がやや高めであったがあまり目立つものではなく、「4年生」は「オフィスアワー」が「1年生」に次ぐ高さで目立っていた。そして、「5年生」は「自己開発センター」が他学年より高く目立っていた。

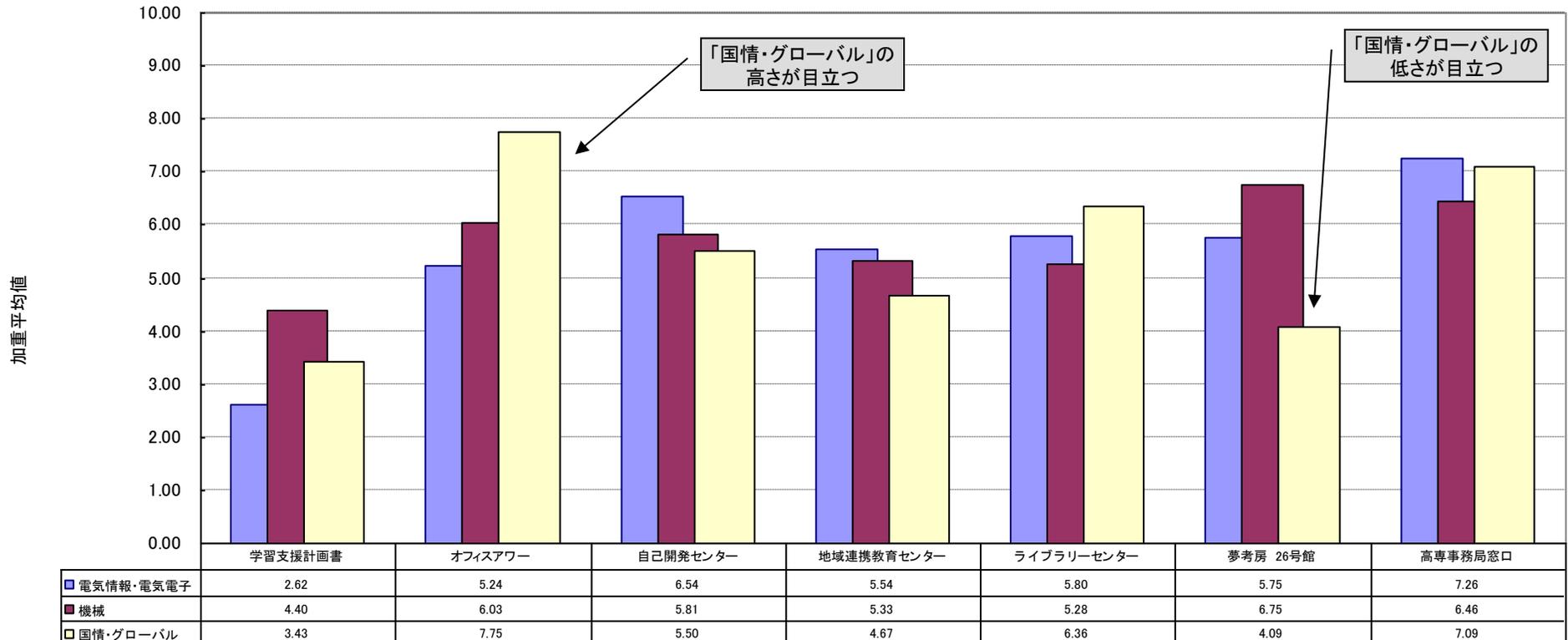
■学生サポート評価 学年別比較



■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、特定の学科が高いといった傾向は見られず、学科間の差も少なかった。
- 全体として特徴的であったのは「国情・グローバル」であり、「オフィスアワー」の満足度が非常に高く、「夢考房26号館」の満足度が非常に低かった。そして、「ライブラリーセンター」がやや高く、「自己開発センター」と「地域連携教育センター」が低めであった。
- 「電気情報・電気電子」は「自己開発センター」が高く、「地域連携教育センター」と「高専事務局窓口」もやや高めであった。そして、「学習支援計画書」と「オフィスアワー」が低かった。
- 「機械」は「学習支援計画書」と「夢考房26号館」が高く、「ライブラリーセンター」と「高専事務局窓口」が低かった。「夢考房26号館」に対する「機械」の評価が高いという点では学科の特徴がうかがえたが、その他に関しては学科の特徴のようなものは見られなかった。

■学生サポート評価 学科別比較

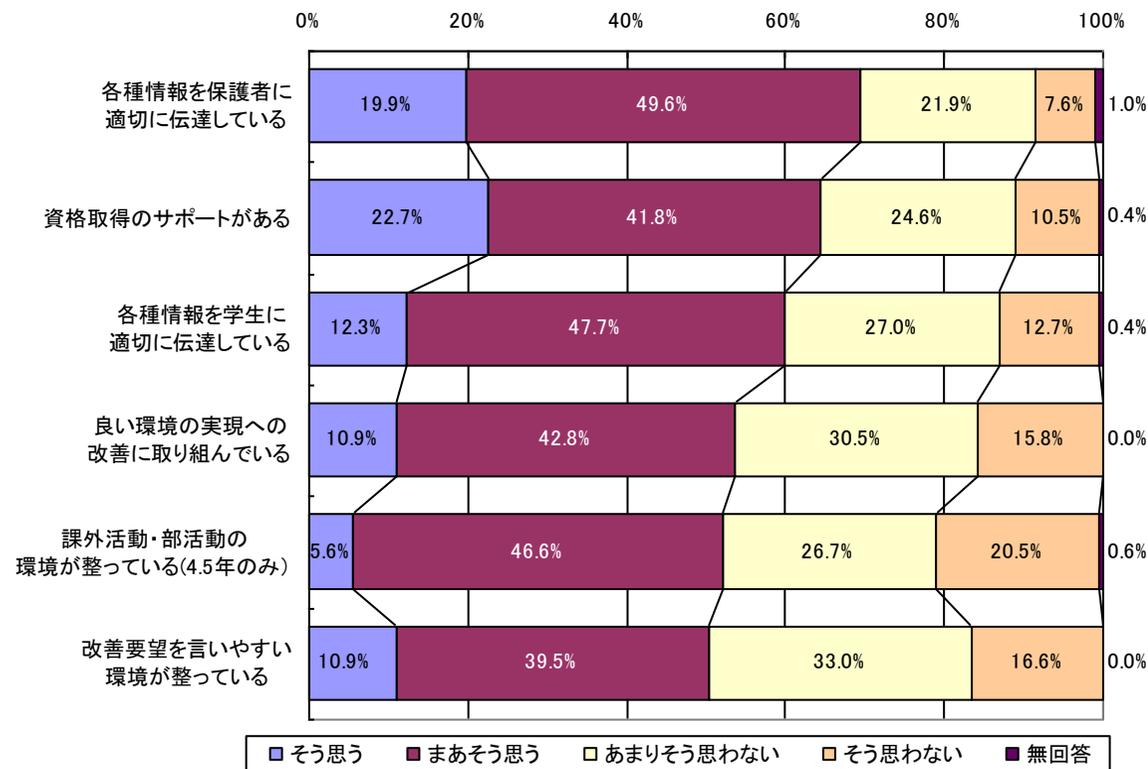


学校の取り組み姿勢に関して

■学校の取り組み姿勢の評価

- 情報伝達や改善への取り組み、資格取得サポートなど、学校の取り組み姿勢に関する6つの項目について聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「各種情報を保護者に適切に伝達している」の評価が最も高く、69.5%が肯定的な意見であった。
- 次いで、「資格取得のサポートがある」が64.5%、「各種情報を学生に適切に伝達している」が60.0%と続いていたが、「そう思う」だけを見ると「資格取得のサポートがある」が22.7%と高く、一部の学生から高い評価を受けているようであった。
- 一方、最も評価が低かったのは「改善要望を言いやすい環境が整っている」であり、肯定的な意見は50.4%、否定的な意見は49.6%で約半数が不満を持っていた。
- 「課外活動・部活動の環境が整っている」は「4年生」と「5年生」にだけ聞いた質問であるが、52.2%は肯定的な意見であり、47.2%が否定的な意見であった。ただ、「そう思わない」が20.5%と最も多く、一部の学生の不満が強いようであった。

■学校の取り組み姿勢の評価(在学生のみ)

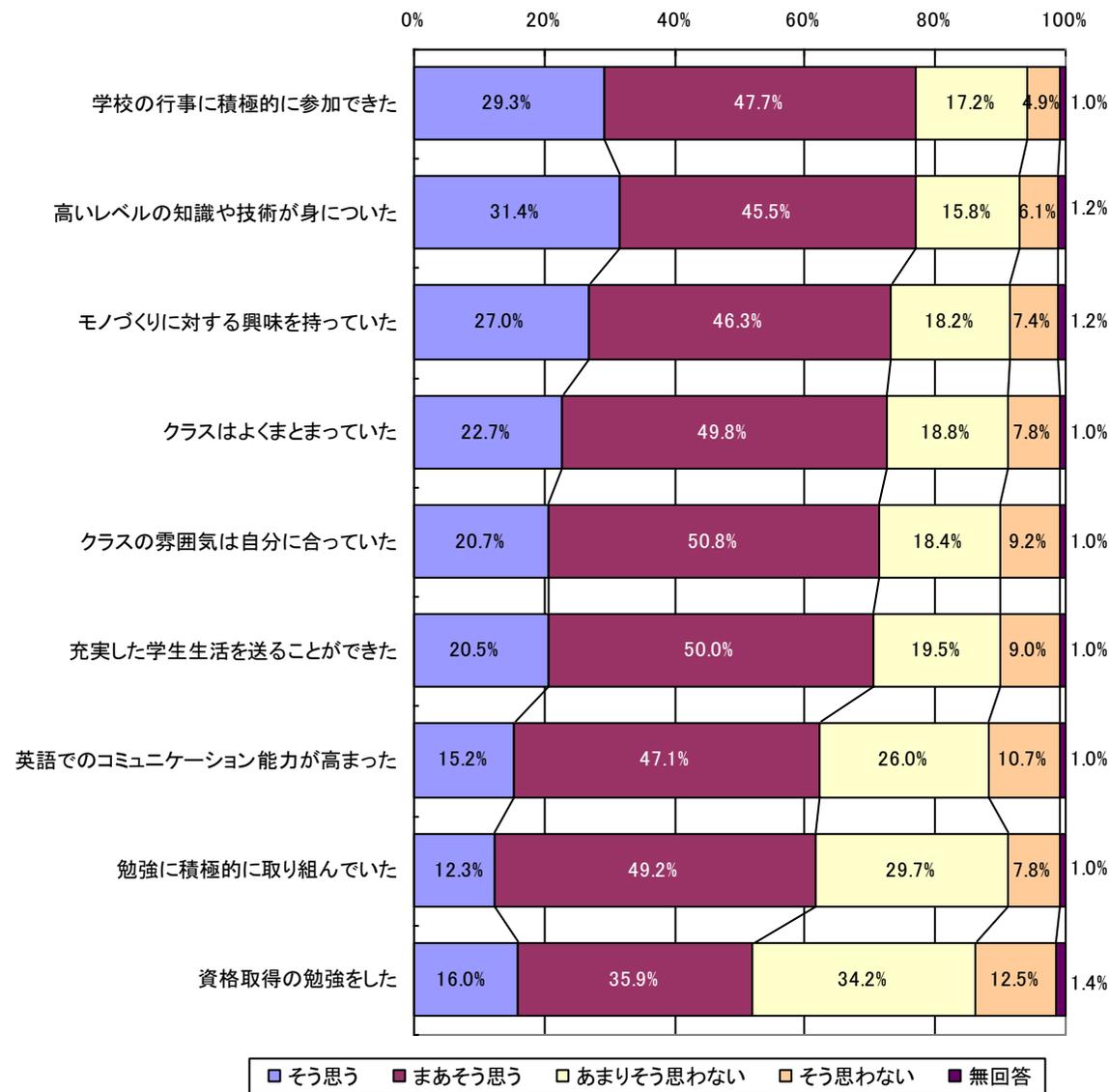


学校での過ごし方に関して

■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方で「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「学校の行事に積極的に参加できた」で肯定的な意見が77.0%と最も多く、行事に対する参加状況がうかがえた。
- 上記に次いで「高いレベルの知識や技術が身についた」が76.9%、「モノづくりに対する興味を持っていた」が73.3%、「クラスはよくまとまっていた」が72.5%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が71.5%、「充実した学生生活を送ることができた」が70.5%となっており、ここまでの6項目では肯定的な意見が7割を超えていた。
- 「そう思う」だけを見ると「高いレベルの知識や技術が身についた」が31.4%で、「学校の行事に積極的に参加できた」の29.3%を上回っていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」であり、ほぼ半数の46.7%が否定的な意見であった。次いで、「勉強に積極的に取り組んでいた」では否定的な意見が37.5%、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」で36.7%であった。

■学校での過ごし方(在学生のみ)

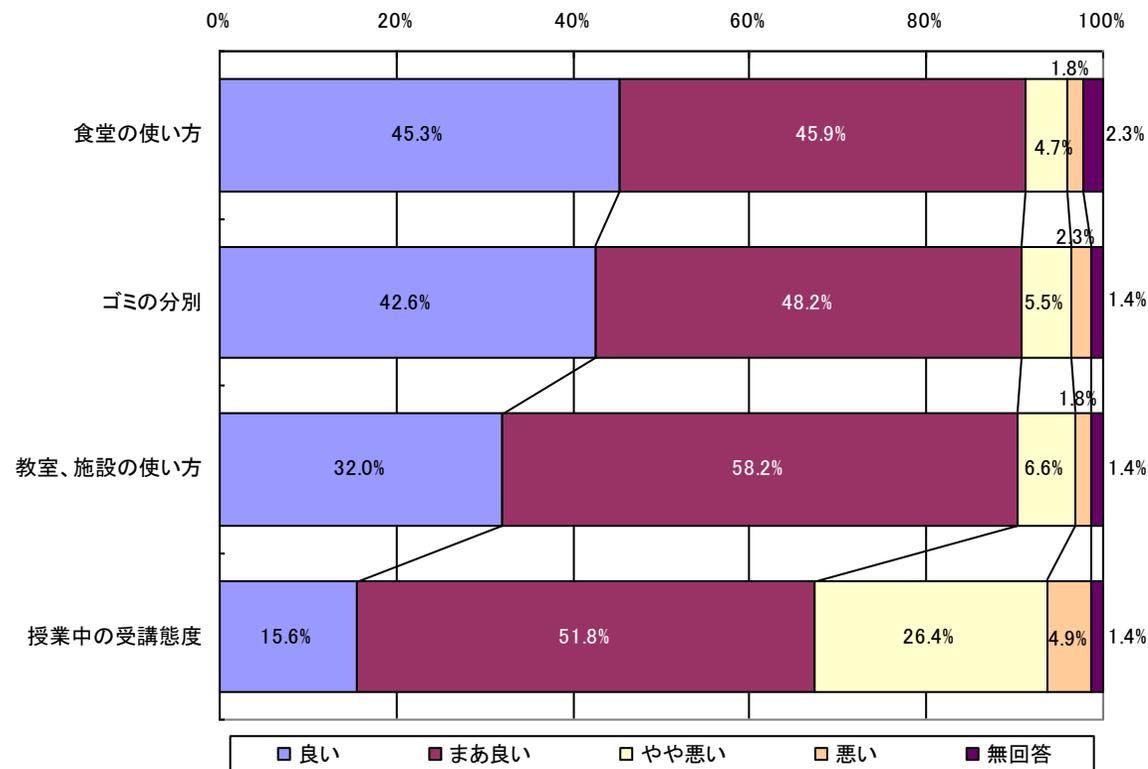


学内での自分自身のマナーに関して

■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーに関する質問は、「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞いている。
- 「良い」と「まあ良い」の合計で見ると、「食堂の使い方」は91.2%とほぼ全員が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「ゴミの分別」が90.8%、「教室、施設の使い方」が90.2%であり、ここまでの3項目では9割以上が肯定的な意見であり、学生自身はあまり問題を感じていないようであった。
- 自己評価が最も低かったのは「授業中の受講態度」であったが、67.4%は問題ないと感じており、否定的な意見でも26.4%は「やや悪い」と感じているという結果であった。

■学内での自分自身のマナー（在学生のみ）

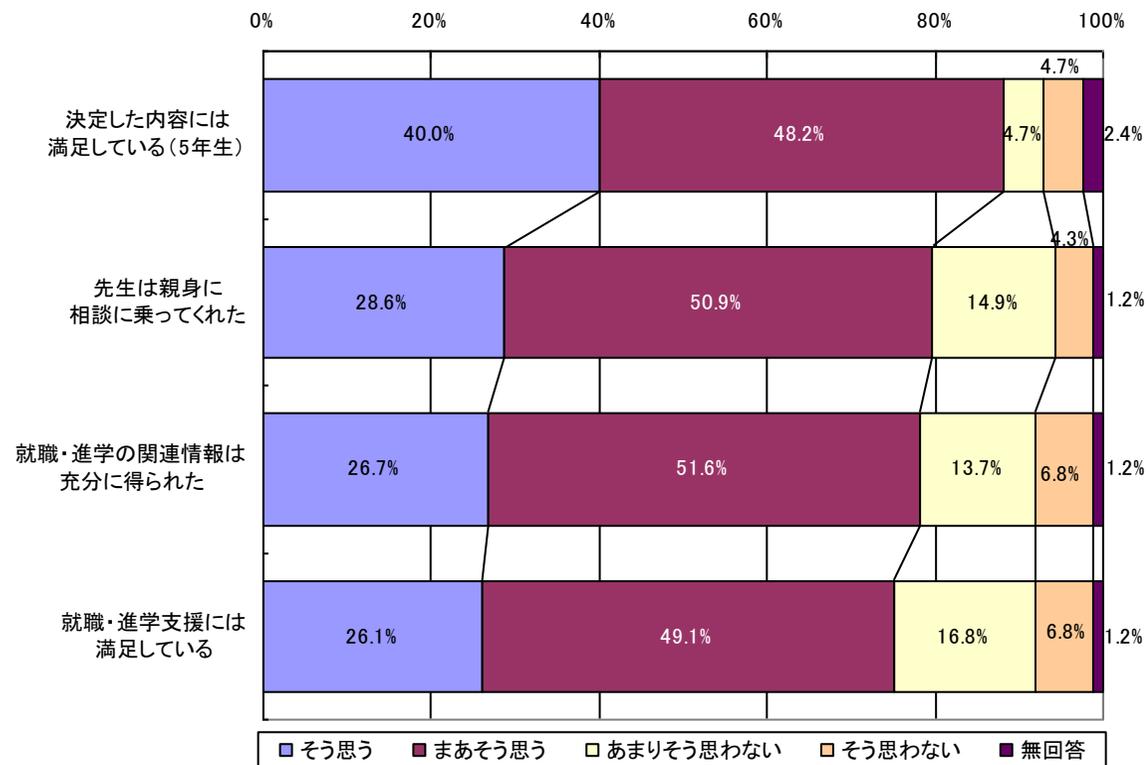


就職・進学支援に関して

■就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関する質問は4年生と5年生だけに聞いている。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、全ての項目で75%以上を占めており、全体的に満足度は高いと言える。
- 最も満足度が高かったのは「決定した内容には満足している」であり、88.2%が満足という回答であった。
- 上記に次いで「先生は親身に相談に乗ってくれた」が79.5%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が78.3%、「就職・進学支援には満足している」は75.2%が満足という意見であった。

■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)

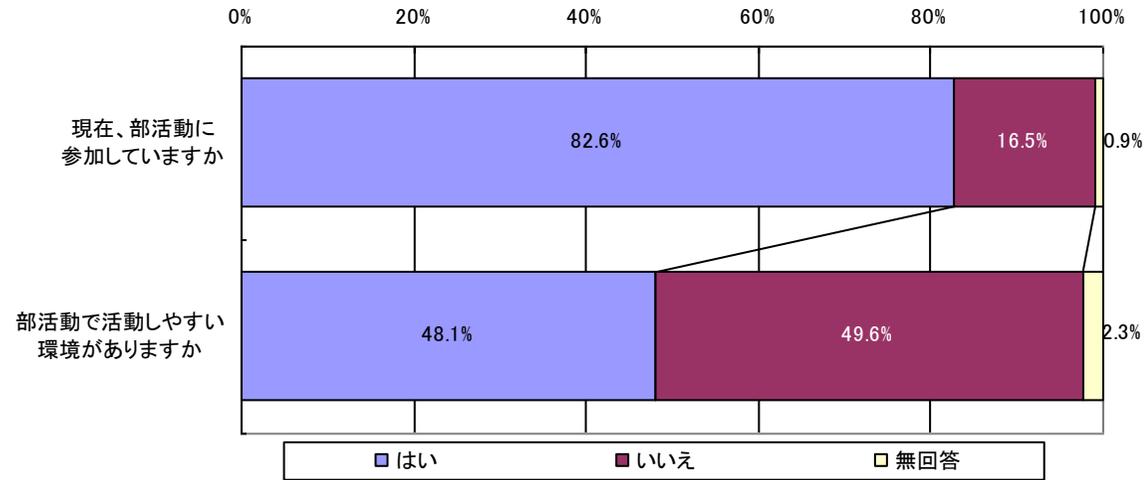


部活動に関して

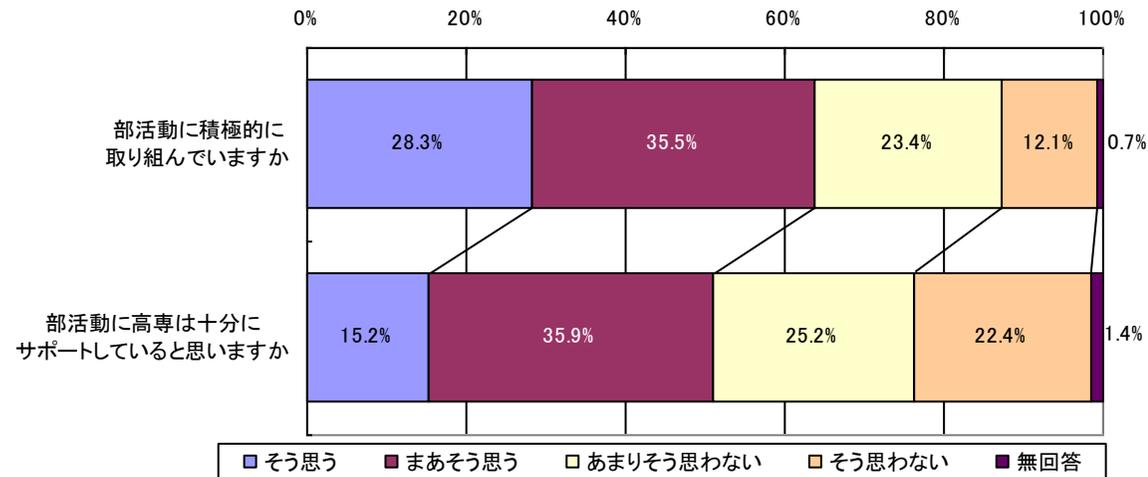
■部活動の現状に関して

- 部活動に関する質問は「1年生」から「3年生」だけに聞いており、「現状評価」は部活動参加者だけを集計の対象としている。
- 「現在、部活動に参加していますか」という問いに対しては、82.6%が「はい」と答えていた。そして、「部活動で活動しやすい環境がありますか」という問いに対しては48.1%が「はい」と答えていたが、約半数は環境が不十分だと思っていることが分かった。
- 部活動参加者に「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞くと、「そう思う」が28.3%、「まあそう思う」が35.5%であり、63.8%は積極的に取り組んでいるようであった。
- 「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」という問いに対しては、「そう思う」が15.2%、「まあそう思う」が35.9%であり、合計すると51.1%と半数はサポートが十分だと感じていた。

■部活動の現状に関して(1~3年生のみ)



■部活動参加者の現状評価(1~3年生、部活動参加者のみ)

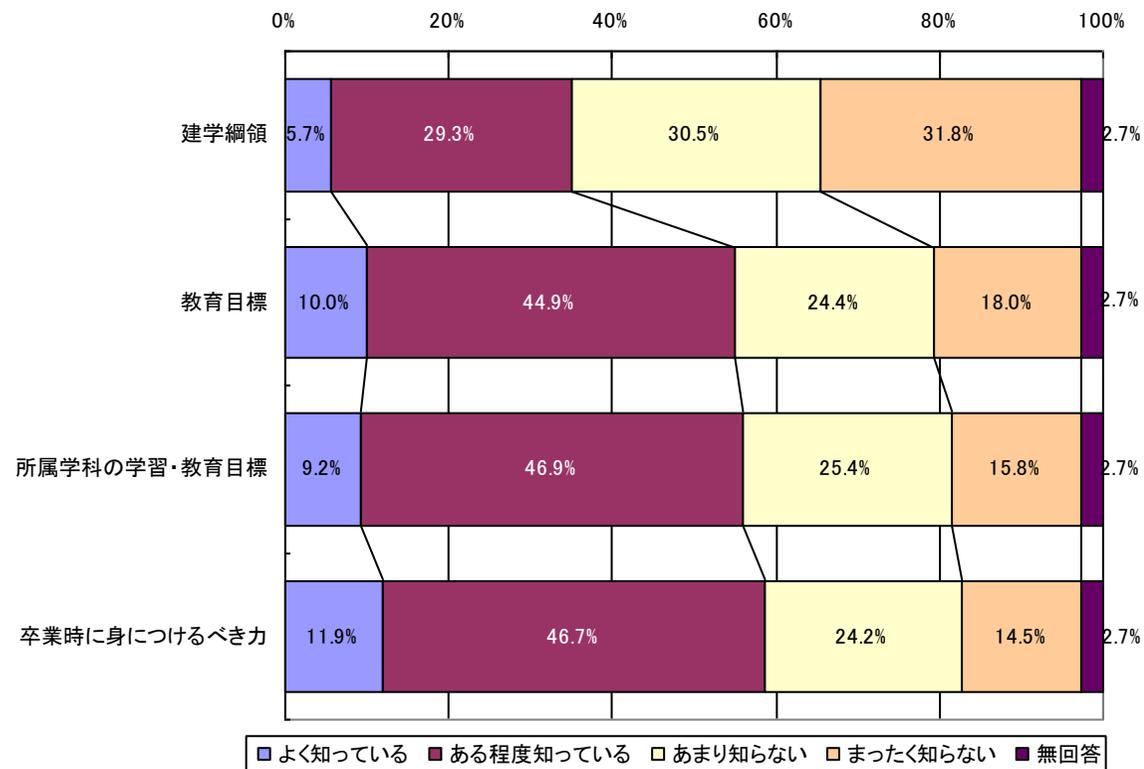


KTCの目的・目標に関して

■KTCの目的・目標に対する意識

- 「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計で見ると、「建学綱領」を知っているという回答は35.0%であり、学生の1/3程度にとどまっていた。
- 他の3項目は同じような傾向であり、知っているという意見は「教育目標」で54.9%、「所属学科の学習・教育目標」で56.1%、「卒業時に身につけるべき力」で58.6%であり、半数強が知っているという回答であった。

■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)

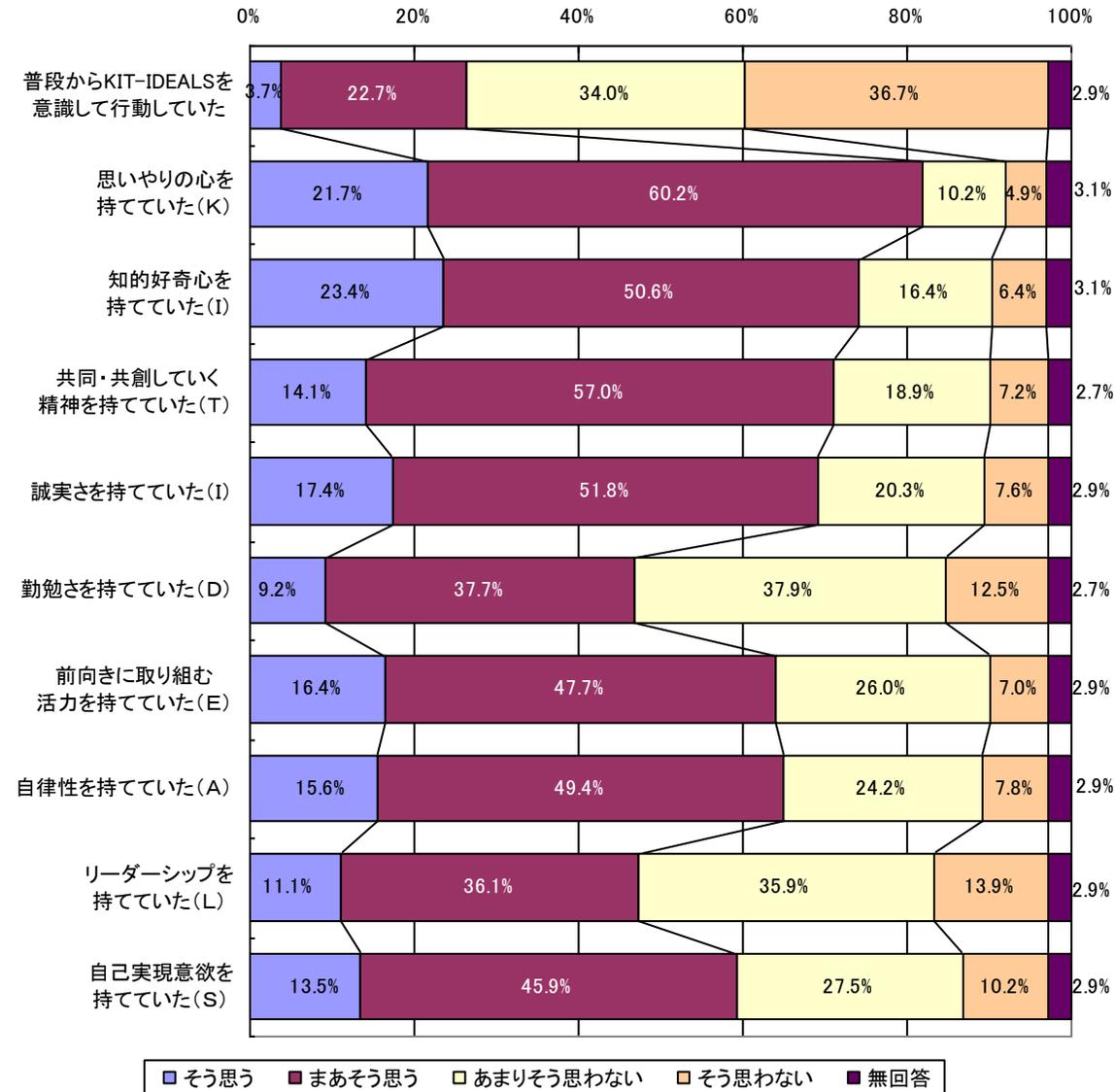


KIT-IDEALSに関して

■KIT-IDEALSに関して

- KIT-IDEALSに対する意識に関して、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に対しては「そう思う」が3.7%、「まあそう思う」が22.7%であり、合わせると26.4%が肯定的な意見で、普段はそれほど意識していない様子が見えてきた。
- KIT-IDEALSの各項目に関して、肯定的な意見が最も多かったのは81.9%の「思いやりの心を持っていた(K)」であった。
- 上記に次いで「知的な好奇心を持っていた(I)」で肯定的な意見が74.0%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が71.1%、「誠実さを持っていた(I)」が69.2%と続いていた。
- 肯定的な意見が最も少なかったのは「勤勉さを持っていた(D)」であり、肯定的な意見は46.9%であった。そして、「リーダーシップを持っていた(L)」では47.2%であり、この2項目の低さが目立っていた。

■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)

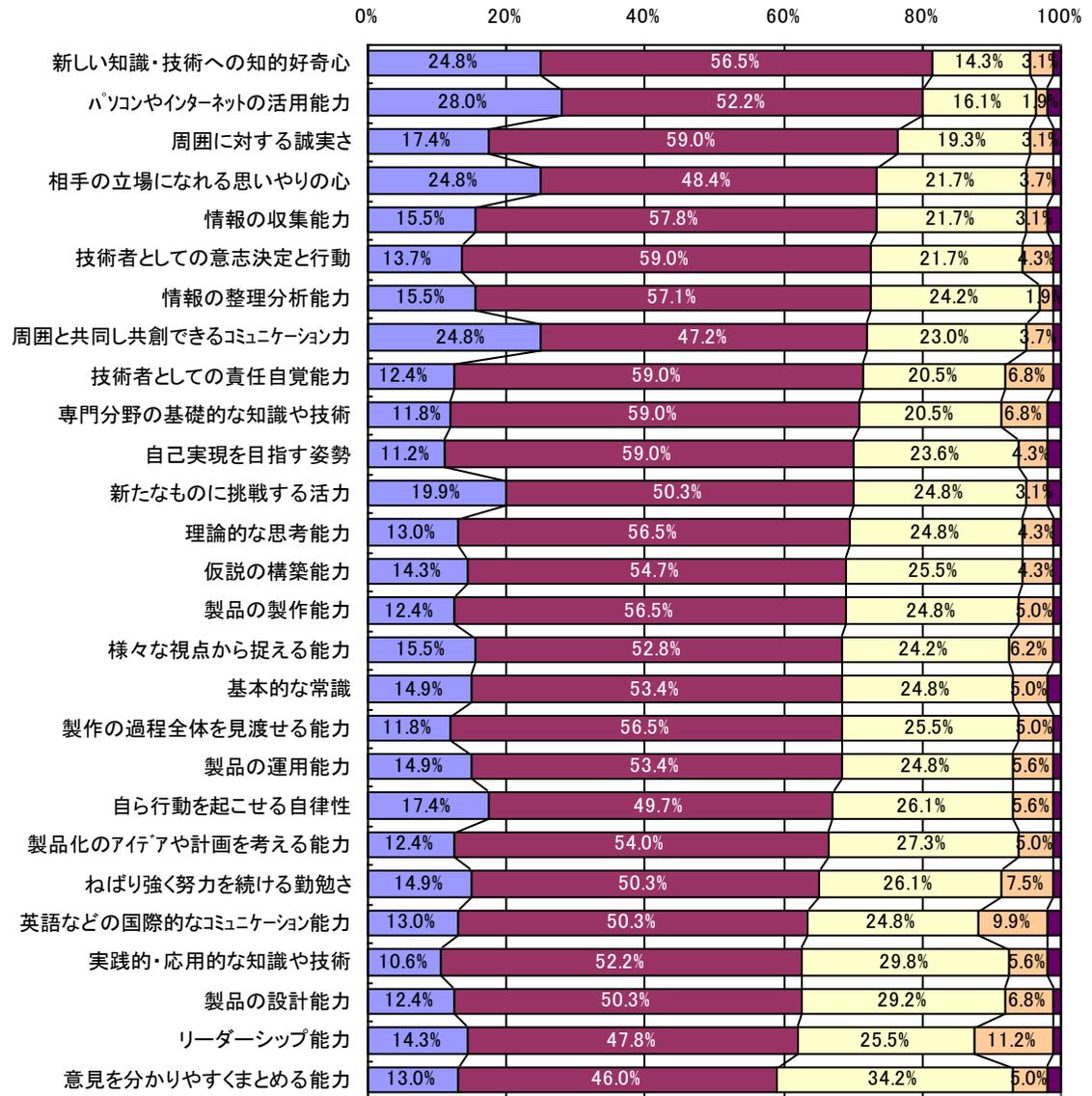


学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
- 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせたもので比べると、「新しい知識・技術への知的好奇心」で81.3%となり、学生が自分自身の能力で最も強いと思っている。
- 上記に次いで「パソコンやインターネットの活用能力」が80.2%、「周囲に対する誠実さ」が76.4%、「相手の立場になれる思いやりの心」が73.2%、「情報の収集能力」が73.3%と続いていた。
- 特に「満たしている」だけを見ると上位はあまり変わらなかったが、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」「新たなものに挑戦する活力」の2つが高めであり、一部の学生がこの点に自信を持っている様子がうかがえた。
- 最も自信を持てていなかったのは「意見を分かりやすくまとめる能力」の59.0%であり、「リーダーシップ能力」(62.1%)、「製品の設計能力」(61.7%)、「実践的・応用的な知識や技術」(62.8%)と続いていた。

■学生が考える現段階の自分自身の能力

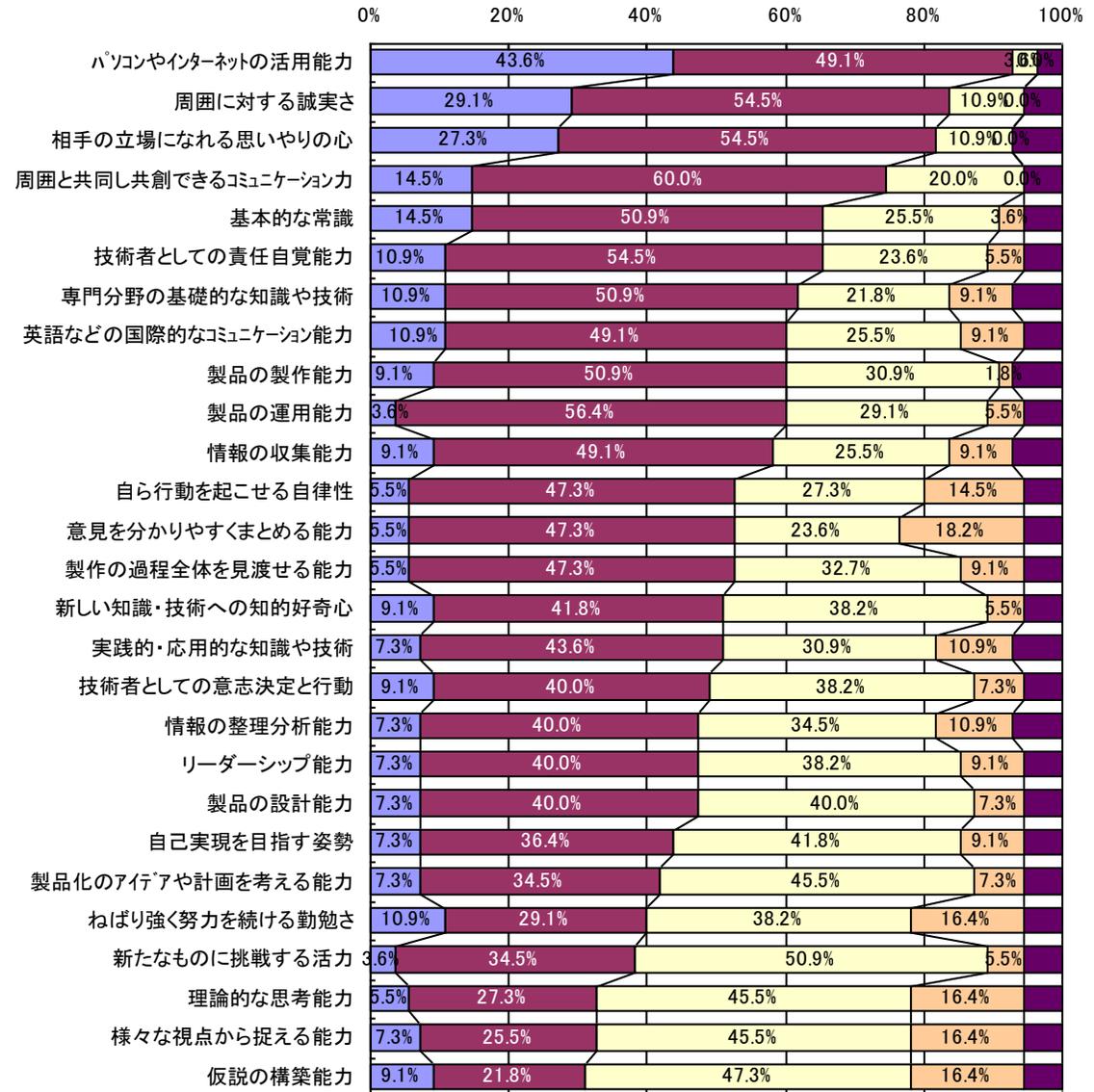


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員には「卒業生の卒業時の能力の評価」を聞いているが、最も評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、92.7%が肯定的な意見で、更に「満たしている」が43.6%と非常に多く、卒業生の一番の強みだと見ていた。
- 上記に次いで「周囲に対する誠実さ」では肯定的な意見が83.6%、「相手の立場になれる思いやりの心」が81.8%、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」が74.5%と続いており、ここまでの4項目で肯定的な意見が7割を超えていた。
- 最も肯定的な意見が少なかったのは「仮説の構築能力」であり、肯定的な意見は30.9%であった。
- 他には「様々な視点から捉える能力」「理論的な思考能力」「新たなものに挑戦する能力」などが低く、このあたりが弱点だと考えているものと思われる。

■教職員による金沢高専卒業生の能力評価

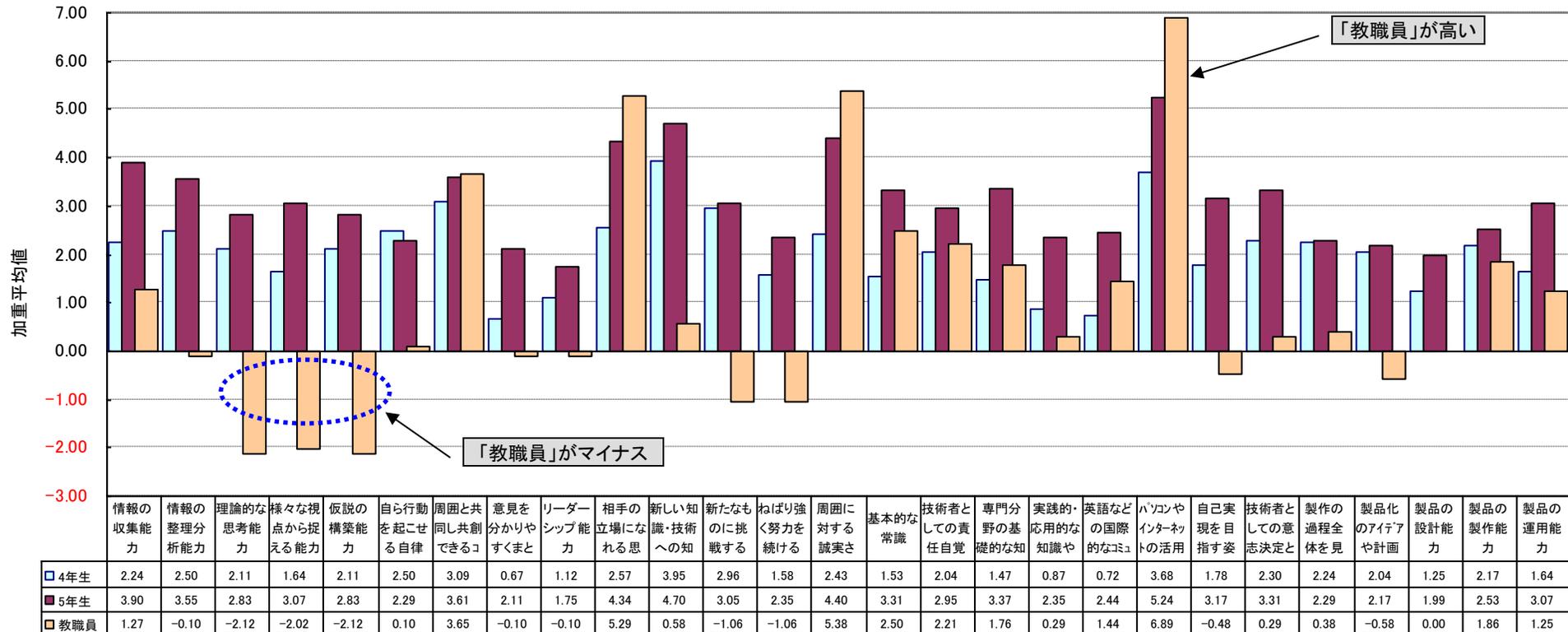


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■自分自身(学生)の能力評価の属性別比較

- 自分自身の能力に関して、「4年生、5年生の自己評価」と「教職員の卒業生評価」を比較したところ、下記のように「5年生」の自己評価が全体的に高めであり、「教職員」が高く評価している項目もいくつか見られた。
- 「5年生」はほとんどの項目で「4年生」の評価を上回っていた。これには色々な要因が考えられるが、「5年生」は卒業研究や就職活動などを通して、自信を高めているといった理由もあるのではないかと思われた。
- 「教職員」の評価は特徴的で、「パソコンやインターネットの活用能力」は非常に高く評価しており、「周囲に対する誠実さ」「相手の立場になれる思いやりの心」「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」は学生よりも高い評価となっていた。そして、特徴的であったのは「理論的な思考能力」「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」の3点であり、ものの考え方に関して課題を感じているようであった。

■KIT卒業生の能力 属性別の比較

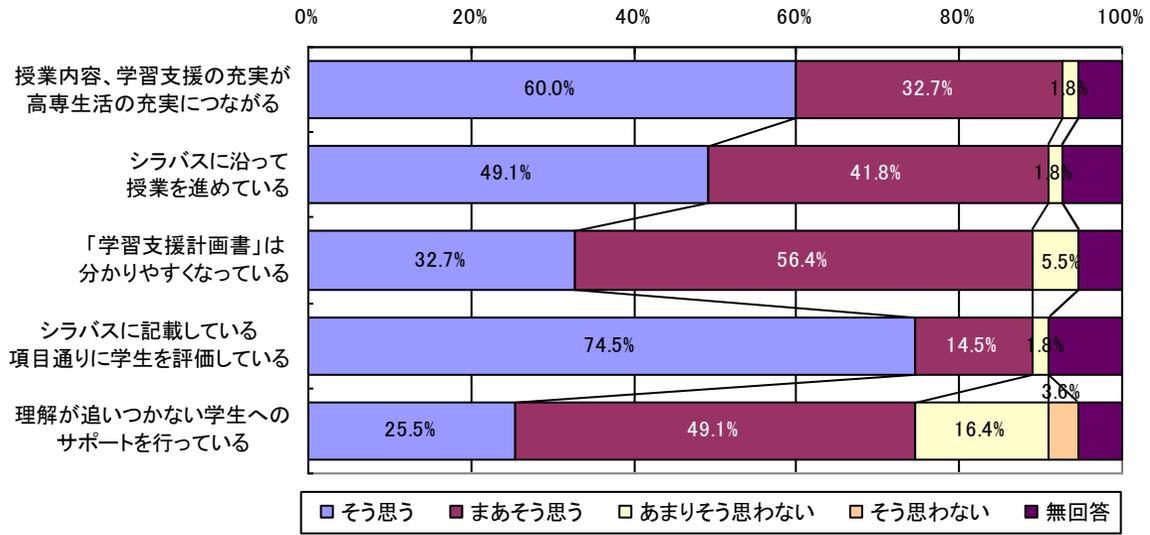


金沢高専の授業と教員業務に関して

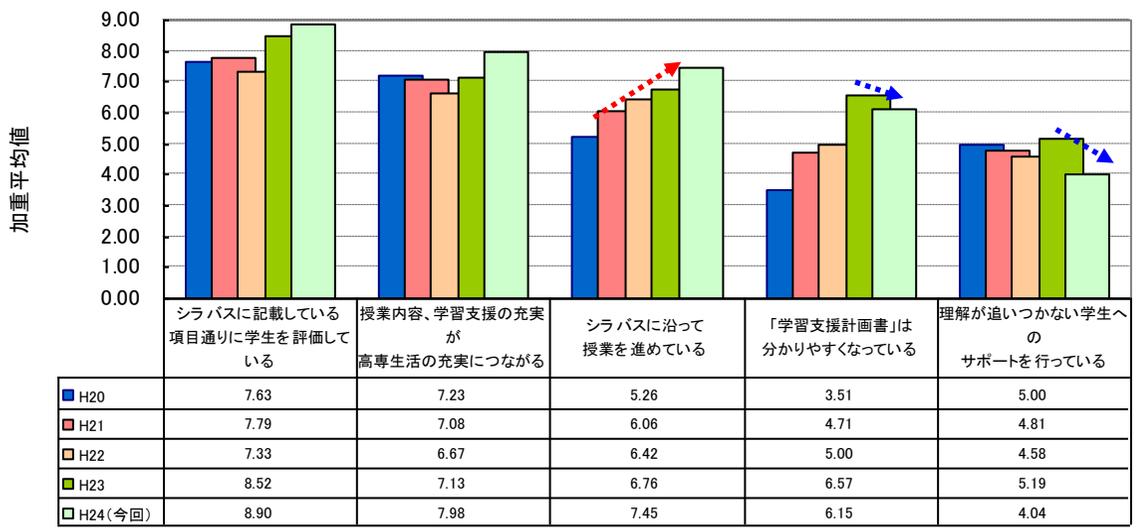
■教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員に対する「授業および学習支援」の自己評価に関して「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見たところ、「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」以外は肯定的な意見がほぼ9割を占めており、自己評価は高かった。
- 「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」は少なかったとはいえ74.6%は肯定的な意見であった。
- 「そう思う」の割合で比較すると、「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」で74.5%であり、この点は最もしっかり対応しているようであった。次いで「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」が60.0%で続いていた。
- 年度別の比較では、「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」「シラバスに沿って授業を進めている」の3項目は前回は上回っており、特に「シラバスに沿って授業を進めている」はH20から継続的に上がってきていた。
- しかし、「学習支援計画書は分かりやすくなっている」「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」の2項目は前回より低下しており、特に「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」はこれまでで最も低くなっていた。

■教員の「授業および学習支援」の自己評価



■教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

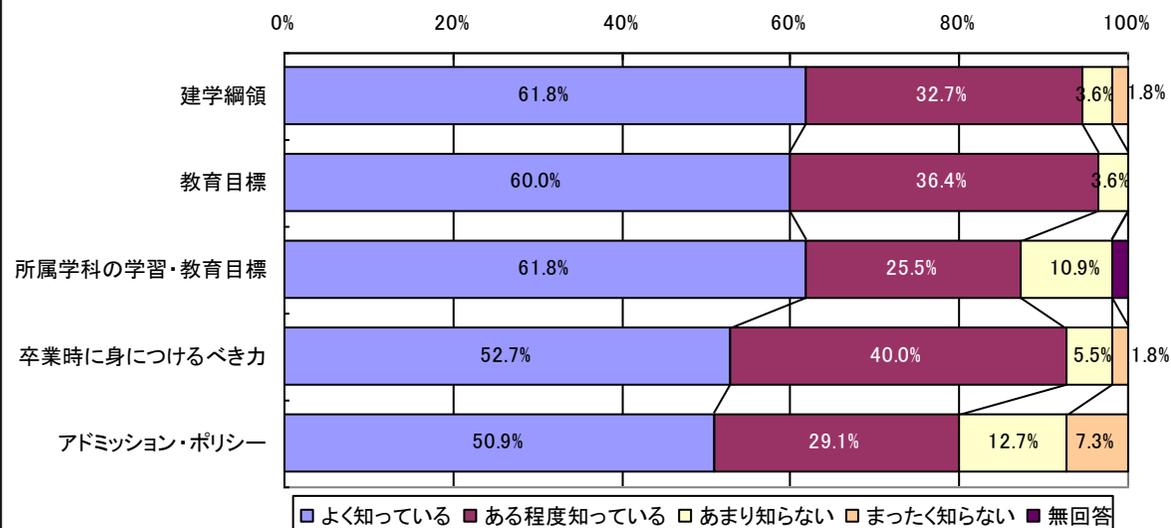


教職員の意識に関して

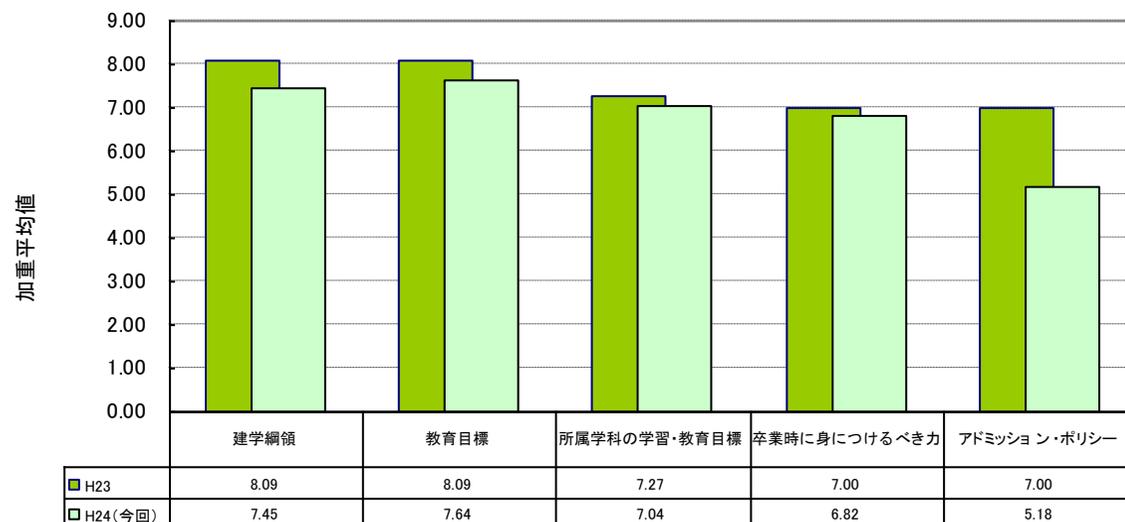
■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 「建学綱領」「教育目標」などの認知度に関して「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計と比較すると、「所属学科の学習・教育目標」と「アドミッション・ポリシー」の2項目以外は9割以上の認知度であった。
- 「建学綱領」と「教育目標」の回答は似ており、両者共に「よく知っている」が6割程度、「ある程度知っている」が3割程度で、合わせると9割以上が知っていると答えていた。
- 上記に次いで「卒業時に身につけるべき力」の認知度が高く、「よく知っている」が52.7%、「ある程度知っている」が40.0%という結果であった。
- 認知度が最も低かったのは「アドミッション・ポリシー」であり、認知度は80.0%であった。そして、「所属学科の学習・教育目標」は「よく知っている」は61.8%と高いものの、認知度は87.3%とやや低かった。
- この質問は前回から聞いているものであるが、全ての項目で前を下回っていた。特に「アドミッション・ポリシー」の低下が大きかった。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較



全体の課題のまとめ

<学生の満足度や目的・目標志向に関して>

- ◆満足している学生は増加しているものの1/3は不満を感じている。「目的・目標あり」も増加しているものの、半数は「目的・目標なし」と答えており、安心できる数値ではなかった。
- ◆「現5年生」は非常に特徴的な学生群であったが、その特徴を洗い出しておくことで今後の参考事例になるのではないかとと思われる。
- ◆「現5年生」と同様に好循環が起きていると思われるクラスの特徴をしっかりと把握しておくことも必要だと思われる。

卒業してしまったが、「現5年生」を参考事例として記録しておく

好循環が起きている学生群の特徴をしっかりと把握しておく

<授業・学習サポートに関して>

- ◆授業の満足度は全体的に上がっているが、この要因を探っておく必要があると思われる。
- ◆「授業での教員の指導方法」「学習支援」「学生サポート」の評価も上がっており、これに関しても要因を探っておく必要があると思われる。
- ◆全体的に「英語」に対する苦手意識が見られる。英語に強いはずの「国情・グローバル」で「工学英語協同学習」に不満が見られ、英語カリキュラムの更なる充実が必要と思われる。

「満足度」は上がっているが要因が把握できていない。

クラス別に見ると好循環が起きているクラスが見受けられ、これらをしっかりと研究することが必要と言える。

「学生」「教職員」のいずれの面でも意見を受けて改善に結びつけるPDCAサイクルの確立を再検討する必要がある。

「英語」「就職・進学相談」「部活動サポート」など、個別の課題も見られた。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆学生の改善要望の受け皿の充実、学生の意見を活かす仕組み、改善の効果やその後の経緯などを追跡するためのPDCAをしっかりと運営していく必要があると思われる。
- ◆資格取得のための勉強をしているが減少していた。これは気になる点であり、実態を把握しておく必要があると言える。
- ◆教職員調査では部活動に充てる時間が増加しているという結果もあったが、部活動に関しては環境の整備、学校のサポートの充実が求められている。

<その他の環境に関して>

- ◆「就職・進学支援」の満足度は高く、以前より良くなる傾向は見られるが、学生は相談の際にはより親身になって欲しいと考えており、改善の余地があるのではないかとされた。
- ◆卒業時にどのような能力を身に付けておくべきかに関して、学生にはより意識させた方が良いのではないかとと思われる。
- ◆学生は「リーダーシップ」に苦手意識があり、このあたりはしっかりと指導していく必要があると思われる。

<教職員の意見に関して>

- ◆教職員の業務への時間配分では改善が進んでいるようであったが、高専に対する不満はやや増加しており、しっかりと現状把握とフォローが必要だと思われる。

不満の受皿の拡充とそれを改善に結びつける仕組み(PDCA)が必要ではないか？

平成24年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成25年7月17日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁